FUJITSU Software

ServerView Infrastructure Manager V2.0

ユーザーズマニュアル の修正情報

版数:第3版 CA92344-1452-03 提供年月:2017年2月

【マニュアル修正情報】

ServerView Infrastructure Manager V2.0 ユーザーズマニュアル

【修正履	【修正履歴】								
修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン				
番号									
1	2017年2月	まえがき	略称	OS を追加	V2. 0. 0. d				
2	2017年1月	1.2.6	同左	ネットワークマップの説明を追加	V2. 0. 0. c				
		ネットワーク管理機能							
		の概要							
3	2017年1月	1. 3. 1	図 1.5 機能イメージ(管	スイッチ情報の設定イメージを追加	V2. 0. 0. c				
		インフラ運用管理シー	理対象ノードの保守)						
		ンごとの ISM 機能イメ							
		ージ							
4	2016年9月	1.4	図 1.6	ISM外部で用意するサーバやサービスについ	V2. 0				
		構成	ネットワーク構成	ての注意事項を追加					
5	2017年1月	1.4	同左	管理対象ノード-サーバ(管理対象サーバ)へ	V2. 0. 0. c				
		構成		プロファイル管理機能で 0S インストールす					
				る場合の説明を追加					

修正 番号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
6	2016年9月	1. 5. 1	同左	ディスク容量についての注意事項を追加	V2. 0
		ISM-VA(仮想マシン)			
		のシステム要件			
7	2016年9月	1.5.3	ファイル転送用管理端末	ISM外部で必要なサービス要件を追加	V2.0
		ISM の運用に必要なサー	のシステム要件		
		ビス要件			
8	2016年9月	1.6	OS インストール完了のタ	OS インストールする際の RAID 構成について	V2.0
		留意事項	イミング	の説明の追加	
9	2017年1月	1.6	ログ管理機能の自動収集	ログファイルの総容量に上限を設定した場合	V2. 0. 0. c
		留意事項	を利用する場合	の説明の追加	
10	2017年2月	2.1.1	同左	画像の差し替え	V2. 0. 0. d
		GUI			
11	2016年9月	2. 2. 1. 1	ノードの 0S 情報の登録	・ノードの 0S 情報にドメインユーザーを使	V2. 0. 0. c
	2017年2月	データセンター/フロア		用して登録した際の注意事項を追加	V2. 0. 0. d
		/ラック/ノードの登録		・ボタン名称を変更	
12	2017年1月	2. 2. 1. 1	ノード検出機能	サポート対象外機器に関する注意事項を追加	V2. 0. 0. c
		データセンター/フロア			
		/ラック/ノードの登録			

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
番号					
13	2017年2月	2. 2. 1. 1	検出したノードを登録す	ボタン名称を変更	V2. 0. 0. d
		データセンター/フロア	3		
		/ラック/ノードの登録			
14	2017年1月	2. 2. 1. 2	ノードの 0S 情報の確認	ノードの 0S 情報にドメインユーザーが登録	V2.0.0.c
		データセンター/フロア		されている際の説明を追加	
		/ラック/ノードの確認			
15	2016年9月	2. 2. 2	監視項目/しきい値の設定	各種 LED ステータスの説明を追加	V2.0
		モニタリング機能			
16	2017年2月	2. 2. 2	監視項目/しきい値の追加	ボタン名称を変更	V2. 0. 0. d
		モニタリング機能	手順		
17	2016年9月	2. 2. 2	アラーム設定の登録	イベントタイプについての説明を追加	V2.0
		モニタリング機能			
18	2016年9月	2. 2. 2	アラーム設定の登録	アラームの設定内容を変更する必要がある場	V2.0
		モニタリング機能		合の説明とメンテナンスモードについての説	
				明を追加	
19	2017年1月	2. 2. 2	アラームステータスにつ	MIB ファイル登録方法の説明を追加	V2. 0. 0. c
		モニタリング機能	いて		
20	2016年9月	2. 2. 3	プロファイル例	「プロファイル作成」画面例(GUI)画像を	V2.0
		プロファイル管理機能		差し替え	

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
番号					
21	2016年9月	2. 2. 3	プロファイルの編集と再	プロファイルの編集における 0S の設定項目	V2.0
		プロファイル管理機能	適用手順	についての説明を追加	
22	2016年9月	2. 2. 3	0S インストール時に必要	ServerView Suite DVD のインポートに関する	V2.0
		プロファイル管理機能	な準備作業	説明を追加	V2. 0. 0. c
				PXE ブート対象の LAN に関する説明を変更	
23	2016年9月	2. 2. 3	プロファイル適用時の動	プロファイルの再適用時の説明を追加	V2.0
		プロファイル管理機能	作指定	電源オン状態でのプロファイルを適用につい	
				ての説明を追加	
24	2016年9月	2. 2. 4. 1	同左	ノードリスト、[カラム表示]欄を[ファーム	V2.0
		ノードのファームウェ		ウェア]に切り替えた際の、画面表示に関す	
		ア版数の確認		る説明を追加	
25	2016年9月	2. 2. 4. 2	同左	文言を修正	V2.0
		ファームウェアアップ			
		デート			
26	2016年9月	2. 2. 4. 2	アップデート時の動作	文言を修正	V2.0
		ファームウェアアップ			
		デート			
27	2016年9月	2. 2. 4. 2	ファームウェアアップデ	文言を修正	V2.0
		ファームウェアアップ	ートの実施	PCI カードのファームウェアアップデートを	
		デート		行う際の注意事項を追加	

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
番号					
28	2016年9月	2. 2. 4. 3	同左	文言を修正	V2.0
		ファームウェアデータ			
		に添付されているドキ			
		ュメントの確認			
29	2017年1月	2. 2. 5	収集可能なログの種類	ストレージのモデル修正	V2. 0. 0. c
		ログ管理機能			
30	2017年1月	2. 2. 5	ログ保管先のディスク容	ログファイルの総容量の上限値に関する説明	V2. 0. 0. c
		ログ管理機能	量監視機能	の追加	
31	2017年1月	2. 2. 6	同左	ネットワーク管理機能の概要説明を追加・変	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能		更	
32	2017年1月	2. 2. 6	同左	画像を差し替え	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能			
33	2017年1月	2. 2. 6	同左	ネットワーク管理機能の機能一覧の追加・変	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能		更	
34	2017年1月	2. 2. 6	ネットワーク接続の表示	仮想マシン、仮想スイッチと物理的なポート	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能		との接続関係について説明を追加	
35	2016年9月	2. 2. 6	ネットワーク接続情報の	[ネットワークマップ]の画面表示に関する説	V2. 0
		ネットワーク管理機能	表示	明を追加	
36	2017年1月	2. 2. 6	ネットワーク接続情報の	操作手順の注意事項の追加	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能	表示		

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
番号					
37	2017年1月	2. 2. 6	ネットワーク管理情報の	ネットワーク管理情報の最終更新時刻の表示	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能	更新	に関する説明を追加	
38	2017年1月	2.2.6	ネットワーク接続の変化	文言の修正	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能	情報の確認		
39	2017年1月	2. 2. 6	ネットワーク接続の変化	接続情報変化の最終更新日時に関する説明を	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能	情報の確認	追加	
40	2017年1月	2. 2. 6	ネットワーク接続の変化	基準点設定について詳細情報を追加	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能	情報の基準設定		
41	2017年1月	2. 2. 6	VLAN、リンクアグリケー	VLAN 設定、リンクアグリゲーション設定の確	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能	ション設定の確認	認手順の説明を修正	
42	2017年1月	2. 2. 6	同左	VLAN 設定の変更手順およびリンクアグリゲー	V2. 0. 0. c
		ネットワーク管理機能		ション設定の変更手順の説明を追加	
43	2016年9月	2. 3. 1	2. 3. 1. 2	・ISM-VAに保存できるファイル容量の上限値	V2. 0
		ユーザー管理機能	ユーザーグループの管理	に関する説明を追加	V2. 0. 0. c
				・認証方法に関する注意事項の削除	
				・ユーザーグループ作成後の仮想ディスク割	
				り当てに関する注意事項を追加	

修正 悉号	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
44	2017年1月	2. 3. 1. 3	設定手順	Microsoft Active Directory、LDAP との連携	V2. 0. 0. c
		Microsoft Active		時の注意事項を追加	
		Directory または LDAP			
		との連携			
45	2017年2月	2. 3. 1. 4	ノードグループの編集	ボタン名称を変更	V2. 0. 0. d
		ノードグループの管理			
46	2017年1月	2. 3. 2	同左	仮想ディスク割当てに関する注意事項の追加	V2. 0. 0. c
		リポジトリ管理機能			
47	2016年9月	2. 3. 2	ファームウェアデータの	文言と一部のモデル名を修正	V2.0
		リポジトリ管理機能	保存		
48	2017年1月	2. 3. 3	同左	Emulex OneCommand Manager CLI、QLogic	V2. 0. 0. c
		Emulex OneCommand		QConvergeConsole CLI のインストール、操作	
		Manager CLI、Qlogic		方法に関する補足情報の修正	
		QConvergeConsole CLI			
		の導入			
49	2016年9月	2. 3. 5. 1	保守機能	SNMP コミュニティー名設定 コマンドの追加	V2. 0
		ISM-VA 管理機能のコマ			
		ンド一覧			

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
留夕 50	2017年1月	2.3.5.1 ISM-VA 管理機能のコマ ンド一覧	イベント通知設定	MIB ファイル設定の追加	V2. 0. 0. c
51	2017年1月	2.3.6 仮想化管理ソフトウェ ア管理機能	同左	仮想化管理ソフトウェア管理機能についての 説明を追加	V2. 0. 0. c
52	2017年1月	2.4.3 ユーザーグループ削除 時	同左	ユーザーグループ削除時の説明の一部を変更	V2. 0. 0. c
53	2016年9月	2.4.4 ユーザーグループ名の 変更時	同左	文言を修正	V2.0
54	2016年9月	3.1 ISM 導入の流れ	(1) 導入設計	準備しておくべき作業の一部を修正	V2. 0
55	2016年9月	3.1 ISM 導入の流れ	(6)仮想ディスクの割り 当て	仮想ディスクの割り当てを行う際の説明の一 部を修正	V2. 0
56	2016年9月	3.1 ISM 導入の流れ	注意	仮想ディスクに関する注意事項を追加	V2.0

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
番号					
57	2016年9月	3. 2. 1. 2	ポイント	ServerView Suite DVDに関する説明を追加	V2.0
		リポジトリの必要容量			
		の見積り			
58	2017年1月	3. 2. 3	同左	OS で使用するネットワークに関する説明を追	V2. 0. 0. c
		ネットワークの設計		加	
59	2016年9月	3. 2. 3	注意	ISM-VAの初期 IP 競合に関する注意事項追加	V2.0
		ネットワークの設計			
60	2016年9月	3. 2. 4	同左	ノード名に使用可能な文字に関する説明を修	V2. 0
		ノード名の設定		正	
61	2016年9月	3. 3. 1	同左	一部の画像を差し替え	V2. 0
		Microsoft Windows			
		Server Hyper-V へのイ			
		ンストール			
62	2016年9月	3. 3. 2	同左	一部の画像を差し替え	V2.0
		VMware vSphere			
		Hypervisor へのインス			
		トール			
63	2016年9月	3. 3. 3	同左	ファイル名の修正	V2.0
		KVM へのインストール		一部の画像の差し替え	

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
畨号					
64	2016年9月	3. 4. 1. 1	同左	一部の画像の差し替え	V2.0
		Microsoft Windows			
		Server Hyper-V で動作			
		する ISM-VA の場合(初			
		回)			
65	2016年9月	3. 4. 1. 2	同左	一部の画像の差し替え	V2.0
		VMware vSphere			
		Hypervisor で動作する			
		ISM-VA の場合(初回)			
66	2016年9月	3. 4. 1. 3	同左	一部画像の差し替え	V2.0
		KVM で動作する ISM-VA			
		の場合(初回)			
67	2016年9月	3. 4. 2	同左	コマンド実行結果例の一部を修正	V2.0
		ISM 初期設定			
68	2017年1月	3. 4. 2	4. コンソールで、日付・	ドメイン環境で使用する場合の設定手順を追	V2. 0. 0. c
		ISM 初期設定	時間の設定をします。	加	
69	2016年9月	3. 7. 1	Microsoft Windows	一部画像の差し替え	V2.0
		ISM-VA 全体に対する仮	Server Hyper-V の場合		
		想ディスク割当て			

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
番号					
70	2016年9月	3. 7. 2	Microsoft Windows	一部画像の差し替え	V2.0
		ユーザーグループに対	Server Hyper-V の場合		
		する仮想ディスク割当			
71	2016年9月	4.1.1.1	同左	一部の画像の差し替え	V2.0
		Microsoft Windows			
		Server Hyper-V で動作			
		する ISM-VA の場合(2			
		回目以降)			
72	2016年9月	4.1.1.2	同左	一部の画像の差し替え	V2.0
		VMware vSphere			
		Hypervisor で動作する			
		ISM-VAの場合(2回目			
		以降)			
73	2016年9月	4.1.1.3	同左	一部の画像の差し替え	V2. 0
		KVM で動作する ISM-VA			
		の場合(2回目以降)			
74	2016年9月	4.6.1	同左	証明書の配置手順の一部追加	V2. 0
		SSL サーバ証明書配置		独自 SSL サーバ証明書の作成手順追加	
75	2016年9月	4.8	同左	DNS サーバ設定に関するコマンドの説明の追	V2. 0
		ネットワーク設定		加	

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
番号					
76	2016年9月	4.11	同左	コマンド実行結果例の一部を修正	V2.0
		システム情報の表示			
77	2016年9月	4.17	4.16	SNMP コミュニティー名設定に関するコマンド	V2.0
		SNMP コミュニティー名	障害調査ログレベル切り	の説明の追加	
		設定	替え		
78	2016年9月	4.18	4.16	ISM-VA 内部の DHCP サーバについての説明を	V2. 0. 0. c
		ISM-VA 内部の DHCP サ	障害調査ログレベル切り	追加	
		ーバ	替え		
79	2017年1月	4.19	4.16	MIB ファイル設定の操作方法の説明を追加	V2. 0. 0. c
		MIB ファイル設定	障害調査ログレベル切り		
			替え		
80	2016年9月	付録A	Microsoft Windows	一部画像の差し替え	V2.0
		ISM-VA のアンインスト	Server Hyper-Vからのア		
		ール	ンインストール		
81	2016年9月	付録 A	VMware vSphere	一部画像の差し替え	V2.0
		ISM-VA のアンインスト	Hypervisor からのアンイ		
		ール	ンストール		
82	2016年9月	付録 A	KVM からのアンインスト	一部画像の差し替え	V2.0
		ISM-VA のアンインスト	-12		
		ール			

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
番号					
83	2017年1月	付録 B	現象:ismadm コマンドを	ismadm コマンドの実行エラーに関するトラブ	V2. 0. 0. c
		トラブルシューティン	火曜 2:20頃に実行する	ルシューティング記事の追加	
		グ	とエラーとなる。		
84	2016年9月	付録 B	現象:以下の機能におい	文言の修正	V2. 0
		トラブルシューティン	て、ファイルのインポー		
		グ	ト操作の実施時に、ファ		
			イル選択画面で「サーバ		
			との通信に失敗しまし		
			た。」のエラーが表示され		
			る。		
85	2016年9月	付録 B	現象:ETERNUS DX/AF モ	文言の修正	V2. 0
		トラブルシューティン	デルのファームウェアア	ETERNUS AF を追加	V2. 0. 0. c
		グ	ップデートに失敗する。		
86	2017年1月	付録 B	現象:プロファイル機能	ISM-VA の接続確認の説明の修正	V2. 0. 0. c
		トラブルシューティン	で 0S インストールがエラ		
		グ	ーになる。		
87	2017年1月	付録 B	現象:ネットワークマッ	ネットワーク管理機能に関するトラブルシュ	V2. 0. 0. c
		トラブルシューティン	プの表示情報が古い、ま	ーティング記事の追加	
		グ	た正しい情報が表示され		
			ない。		

修正	提供年月日	修正・追加箇所	直近の見出し	修正概要	対象バージョン
番号					
88	2017年1月	付録 B	現象:ノードログが収集	ログファイルの総容量の上限値に関するトラ	V2. 0. 0. c
		トラブルシューティン	されない、ノードログの	ブルシューティング記事の修正	
		グ	収集に失敗する。		
89	2017年1月	付録 B	現象:ノードログ収集の	文言の修正	V2. 0. 0. c
		トラブルシューティン	設定ができない。		
		グ			
90	2017年1月	付録 B	現象:ノードログ収集	文言の修正	V2. 0. 0. c
		トラブルシューティン	で、「オペレーティングシ		
		グ	ステム」、「ServerView		
			Suite」が指定できない。		
91	2016年9月	付録C	同左	付録Cとして、プロファイル設定項目の説明	V2.0
	2017年1月	プロファイル設定項目		を追加	V2. 0. 0. c
	2017年2月			V2.0.0.c で「1.2.4 SUSE Linux Enterprise	V2. 0. 0. d
				Server 用プロファイル」を追加	
				V2.0.0.d で設定項目の説明を追加、修正	

注)修正記事は、対応する修正番号のページをご覧ください。修正記事の記載方法は、修正形式により以下のように異なります。

○ 記事の修正:修正後の内容を<u>点線の下線付きの青文字</u>で記載しています。

○ 記事の追加:追加した内容を青文字で記載しています。

○ 記事の削除:削除した内容に取り消し線が引かれています。なお、「修正概要」だけで、削除内容がわかる場合は、記載を省略しています。
 ○ 図やイメージの差し替え:差し替えた図、イメージに「差し替え画像」と記載しています。

○ 上記の形式での記載が難しいものは、「修正概要」に修正/追加/削除内容を記載していることがあります。

まえがき

略称

本書では、以下のとおり略称で記載することがあります。

正式名称	略称			
Microsoft® Windows Server® 2016 Datacenter	Windows Server 2016 Standard	Windows Server 2016		
Microsoft® Windows Server® 2016 Standard	Windows Server 2016 Datacenter			
Microsoft® Windows Server® 2016 Essentials	Windows Server 2016 Essentials			
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter	Windows Server 2012 R2 Datacenter	Windows Server 2012 R2		
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard	Windows Server 2012 R2 Standard			
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Essentials	Windows Server 2012 R2 Essentials			
Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter	Windows Server 2012 Datacenter	Windows Server 2012		
Microsoft® Windows Server® 2012 Standard	Windows Server 2012 Standard			
Microsoft® Windows Server® 2012 Essentials	Windows Server 2012 Essentials			
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2		
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise	Windows Server 2008 R2 Enterprise			
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard	Windows Server 2008 R2 Standard			
Red Hat Enterprise Linux 7.2 (for Intel64)	RHEL 7.2	Red Hat Enterprise Linux		
Red Hat Enterprise Linux 7.1 (for Intel64)	RHEL 7.1	または Linux		
Red Hat Enterprise Linux 6.8 (for Intel64)	RHEL 6.8(Intel64)			
Red Hat Enterprise Linux 6.8 (for x86)	RHEL 6.8(x86)			
Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for Intel64)	RHEL 6.7(Intel64)			
Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for x86)	RHEL 6.7(x86)			
Red Hat Enterprise Linux 6.6 (for Intel64)	RHEL 6.6(Intel64)			
Red Hat Enterprise Linux 6.6 (for x86)	RHEL 6.6 (x86)			
SUSE Linux Enterprise Server 12 SP1 (for AMD64 & Intel 64)	SUSE 12 SP1(Intel64)	SUSE Linux		

	または	Enterprise Server
	SLES 12 SP1(Intel64)	または
SUSE Linux Enterprise Server 12 (for	SUSE 12(Intel64)また	Linux
	は	
	SLES 12 SP1(Intel64)	
SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4	SUSE 11 SP4(Intel64)	
	または	
	SLES 11 SP4(Intel64)	
SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4	SUSE 11 SP4(x86) また	
	は	
	SLES 11 SP4(x86)	
VMware® vSphere [™] ESXi 6.0	VMware ESXi 6.0	VMware ESXi
VMware® vSphere™ ESXi 5.5	VMware ESXi 5.5	

1.2.6 ネットワーク管理機能の概要

ネットワーク管理機能は、主に以下の用途で利用する機能です。

- 複数ノード間のネットワーク接続状態を画面上の接続図(ネットワークマップ)-- で確認
- ネットワーク接続状態に変化が発生した場合に、変更箇所を画面で確認
- 仮想マシン、仮想スイッチと物理的な接続との関係をネットワークマップで確認
- ネットワークスイッチのVLAN、リンクアグリゲーション (LAG) 設定を確認の確認、変更

ネットワーク管理機能の詳細については、「2.2.6 ネットワーク管理機能」を参照してください。

1.3.1 インフラ運用管理シーンごとの ISM 機能イメージ

図1.5 機能イメージ(管理対象ノードの保守)



1.4 構成



注意

図1.6に記載しているISM外部で用意するサーバやサービスについての詳細は、「1.5.3 ISMの運用に必要なサービス要件」を参照してください。

1.4 構成

管理対象ノード	スイッチ	ISM が状態監視、制御の対象とするノードです。
	ストレージ	
	サーバ	ISM が状態監視、制御の対象とするノードです。
	(管理対象サーバ)	BMC (iRMC) に使用する LAN ポートを管理 LAN に接続し
		ます。
		プロファイル管理機能で 0S をインストールする場合
		には、上記の LAN ポート以外のポートも管理 LAN に接
		続する必要があります。

1.5.1 ISM-VA (仮想マシン)のシステム要件

ISM-VAが動作する仮想マシンのシステム要件は以下のとおりです。

項目	説明		
CPUコア数	コア以上[注1]		
メモリ容量	8GB以上[注1]		
空きディスク容量35GB以上[注2][注3][注4]			
ネットワーク	1Gbps以上		
ハイパーバイザー	Windows Server 2012/2012R2 VMware ESXi 5.5/6.0 Red Hat Enterprise Linux KVM		

[注1]管理するノード数に応じて、必要なコア数およびメモリ容量が異なります。

ノード数	CPUコア数	メモリ容量
1~100	2	8GB
101~400	4	8GB
401~1000	8	12GB

[注2]約100ノードを監視するのに必要最低限のディスク容量です。管理するノード数および使用するISM機能に応じて、ディスク容量を見積もる必要があります。ディスク容量の見積りについては、「<u>3.2.1 ディスク</u>資源の見積り」を参照してください。

[注3] ISM-VAをバックアップする場合は、管理サーバにISM-VAと同等以上の空きディスク容量が必要です。 [注4] ISM-VA導入時に固定的に割り当てる必要があります。

1.5.3 ISM の運用に必要なサービス要件

本章では、ISM の各種運用に必要な外部サービスについて示しまします。

項目	説明
メールサーバ	管理対象ノードの異常や状態の変化をメール送信する場合に、メールサーバを構
(SMTP サーバ)	築しておく必要があります。
	【設定】
	ISM の[各種設定]-[アラーム]-[SMTP サーバ] で設定します。
	【注意】
	ISMに登録できるメールサーバはひとつだけです。
ディレクトリサー	以下の用途で使用する場合に、ディレクトリサービスを構築しておく必要があり
ビスサーバ	ます。
	(1) ISM のユーザー管理で使用する場合
	使用できるディレクトリサービスは、以下の2種類です。
	• OpenLDAP
	• Microsoft Active Directory
	【設定】
	ISM の[各種設定]-[基本設定]-[LDAP サーバ設定]で、構築したサーバを登録しま
	す。
	ISM に登録できる LDAP サーバはひとつだけです。
	(2) フロファイルの 0S インストールで使用する場合
	フロファイルの US インストールの設定項目で指定されたアイレクトリサービ
	スか使用されます。詳細は、フロファイルの OS インストールを参照してくた
	【注音】
	 ・・・・・・ ・・・・・・

	属しているディレクトリサービスとは連携していません。監視対象ノードにアク			
	セスできるアカウントを個別に設定してください。			
DHCP サーバ	プロファイル管理機能でOSインストールを行う場合にDHCPサーバの構築してお			
	く必要があります。			
	OSインストール先のノード(サーバ)でPXEブートを可能とするため、ノードに適			
	切なIPv4アドレスをリースできるように設定してください。			
	【参考】			
	ISM-VA内部のDHCPサービスを起動することで、ISM-VAをDHCPサーバとして使用			
	することもできます。			
	ISM-VAをDHCPサーバとして使用する場合の設定方法は、「4.18 ISM-VA内部の			
	DHCPサーバ」を参照してください。			
DNS サーバ	以下の用途で使用する場合に DNS サーバを構築しておく必要があります。			
	(1) ISM ヘホスト名でアクセスしたい場合。			
	(2) LDAP 連携など ISM の各種サーバ設定で FQDN を使う場合。			
	【設定】			
	DNS サーバを ISM に設定する方法は、「4.8 ネットワーク設定」の「DNS サーバ			
	追加」 を参照してください。			
	【参考】			
	・DNS リーハを使用しない場合に ISM をホスト右 Cノクヒスしたい場合は、			
	1 SM^{-1} VA に子助しかへ下右を設定してくたさい。子助しのホペト右設た力伝は、			
	+4.12 ホイト石友文」を参照してくたさい。			
	やて ID アドレスで設定してください			
NTP サーバ	ISM と監視対象ノードお上び 管理クライアント間の時間がずれたいよう同期さ			
	せる場合に NTP サーバを構築しておく必要があります。			
	【設定】			
	NTP サーバを ISM に設定する場合は、ismadm コマンドを使用してください。			
	設定方法は、「3.4.2 ISM 初期設定」の「NTP 同期有効無効設定」、「NTP サーバ			
	追加削除」を参照してください。			
Proxy サーバ	管理クライアントから、Proxy サーバを経由して ISM ヘアクセスする場合に、			
	Proxy サーバを構築しておく必要があります。			

	【注意】
	監視対象ノードと ISM 間は Proxy サーバを経由して接続することはできません。
ルータ	ISM のネットワークインターフェースはひとつだけしか定義できないため、複数
	のネットワークを構成する環境で ISM を使用する場合に、各ネットワーク間で通
	信可能な状態にルータを設定しておく必要があります。
	【設定】
	ゲートウェイを ISM に設定する場合は、ismadm コマンドを使用してください。
	設定方法は、「4.8 ネットワーク設定」の「ネットワーク設定変更」を参照して
	ください。

1.6 留意事項

OS インストール完了のタイミング

OS の種類、OS 設定によってプロファイル適用完了時の状態が異なります。また、プロファイルで指定する任意スクリプトが実行されるタイミングも OS の種類によって異なります。

0S 種類、設定		OS プロファイル適用完了時点の状態	任意スクリプトが実行されるタイミング	
Windows		OS インストール途中の EULA 画面	EULA 承諾、ライセンス入力などを完了し、	
			最初にログインした際	
Lin	ux	OS 起動完了し、ログインプロンプトの	最初のログインプロンプトの状態(実行	
		状態	済み)	
	RHEL7 で X Window 有効	OS インストール途中の最終設定画面	最終設定が完了し、OS のログインプロン	
			プト画面になった時点	
VMware ESXi		OS 起動が完了し、ネットワーク通信可	OS インストール途中(実行済み)	
(IP アドレスが固定アドレス)		能となった状態		
VMware ESXi		OS のインストールが完了し、再起動し	OS インストール途中(実行済み)	
(I	P アドレスが DHCP 設定)	た状態		

管理対象サーバにOSをインストールする際のRAID構成について

OS インストールには ServerView Suite Installation DVD が必要です。

その際、ServerView Suite Installation DVDのV11.16.04を使用してOSインストールを行う場合には、アレイコントローラで構成するロジカルドライブは1個のみにしてください。

Red Hat Enterprise Linuxの有償サポートサービス (SupportDesk Standard) 利用時の注意

有償サポートサービスを契約しサポートを受ける際は、システム構築に対する条件が存在します。

ISM のプロファイル機能を利用した Red Hat Enterprise Linux の自動インストール時は、サポートに必要な「富士通 Linux サポートパッケージ (FJ-LSP)」の適用やメモリダンプ設定などは行われません。必要な設定はインストール後に 手動で実施してください。

設定内容や設定方法などの詳細については、SupportDesk サービスご契約者様向けの Linux ユーザーズマニュアルを参照 してください。

1.6 留意事項

ログ管理機能の自動収集を利用する場合

事前に設定したスケジュールに従って ISM が定期的にログを収集できますが、利用する際は以下に注意してください。

- ノードを登録しただけではログは収集されません。ノードごとに収集対象ログの種類とスケジュールを設定してくだ さい。
- ノード設定やISM上の設定に誤りがあると正しくログが収集できません。設定後は手動ログ収集を実施し、ログファイルが正しく蓄積されていること、またはISMイベントログにログ収集のエラーが記録されていないことを確認してください。
- 収集可能なログファイルの総容量には上限が設定されています。ログの容量が上限の80%ログファイルの容量が、 [各種設定]でユーザーグループごとに設定した「保管ログ」および「ノードログ」各々の「警告しきい値(%)」に達 すると、ISMのイベントに警告イベントが登録されるので、ます。不要なログを削除してファイル量を削減してくだ さい。なお、同じく設定された「最大サイズ(MB)」に達した場合、それ以上ログが保存されなくなります。
- 収集したログの保有期間/保有回数はノードごとに設定されており、それを超えた古いログは自動的に削除されます。
 ログ収集機能の利用時に、適切な設定に変更してください。

修正番号:10 2.1.1 GUI

(d)	ServerView Inf	rastructur	e Manager				(a) Language	(b) ハルプ マ	(c) ISMAdministrator ➤ FUjÎTSU
1	ダッシュボード	登録	R	き埋 ~	イベント/タスク	~ ログ	> 各種設定	~	(e) ご 更新
	ノードリスト								
	Q 検索		Û.	¢ 🗘 🌲		8 0 0	28 / 28	カラム表示:	基本情報 * アクション ~
		0 0	ノード名 🗘	IPアドレス 💲	モデル 🗘	シリアル番号 💲	搭載位置 i 🗘	更新日 🗘	説明 ○ ^
			SR-X Switch-1	192.168.123. 12	SR-X316T2	41460123	datacenter-1 / floor-1 / rack-1 / 28	04/15/2015	Lorem ipsum dolor sit am
		••••	SR-X Switch-2	192.168.123. 13	SR-X316T2	41460124	datacenter-1 / floor-1 / rack-1 / 27	04/15/2015	TEST Description2
		▶ 🛛	RX Server-1	192.168.123. 14	PRIMERGY RX2520 M1	MASK001110	datacenter-1 / floor-1 / rack-1 / 20	04/15/2015	TEST Description3
			R1-VDX-1	192.168.10.2	VDX 6740	BKN2550H001	datacenter-1 / floor-1 / rack-1 / 41	04/15/2015	TEST Description11
		••••	R1-VDX-2	192.168.10.3	VDX 6740	BKN2550H002	datacenter-1 / floor-1 / rack-1 / 40	04/15/2015	TEST Description12
			SR-X Switch-3	192.168.123. 12	SR-X316T2	41460125	datacenter-1 / floor-1 / rack-2 / 28	04/15/2015	Ĕし替え画像

2.2.1.1 データセンター/フロア/ラック/ノードの登録

ノードの 0S 情報の登録

Administratorグループ その他のグループ 実行できるユーザー Admin Operator Monitor Admin Operator Monitor

ISMに登録しているサーバにOSがインストールされている場合、OS情報を登録してください。 OS情報にはOSの種類、IPアドレス、およびOSに接続するためのアカウント情報などが含まれます。 ドメインユーザーを使用してサーバを監視する際にはドメイン名欄はActive Directoryのレルム名のFQDNを入力し、ア カウント欄にはレルム名を除いたユーザー名を入力してください。 ISMでは、登録されたOS情報を使用して、ノード上でOSの管理下に置かれている情報の取得が行われます。 サポート機器、OSに関する最新の情報は、弊社の本製品Webサイトを参照してください。 <u>http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-</u> <u>software/serverviewism/environment/</u>

注意

- サーバOSをISMから監視対象にするためには、OSごとに導入手順が必要になります。 アカウント情報にドメイン名、アカウントにドメインユーザーを登録した場合には、監視対象OSに別途ドメインユ ーザーで監視させるための設定を追加してください。
 導入手順については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。
 <u>http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverview</u> <u>ism/technical/</u>
 ドメインユーザーを使用してOSを監視する際には、DNSの設定なとびドメイン理Éの設定が必要になります。
- ドメインユーザーを使用してOSを監視する際には、DNSの設定およびドメイン環境の設定が必要になります。
 設定方法については「3.4.2 ISM初期設定」を参照してください。
- OS情報が登録されていない場合、またはOSがシャットダウンされている場合、ノード情報を一部取得できなくなりま す。また、ノード上でOSの管理下に置かれている情報が取得できなくなります。
- 0S情報を登録する際にはドメイン名を大文字で入力してください。

操作例を示します。

- 1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、「ノードリスト」画面を表示します。
- 2. 対象ノードのノード名を選択し、[0S]タブを表示します。
- 3. [アクション]ボタンから[OS情報編集]を選択します。
- 4. 必要な情報を入力し、適用します。
- 5. [0Sアクション]ボタンから[ノード情報取得]を選択します。 ノード情報取得が完了すると、イベントログにメッセージID「10020303」のログが出力されます。
- 6. 更新ボタンをクリックして、[0S]タブの表示を更新します。

ノード検出機能

注意

- 検出されたノード情報は、同じセション内でのみ有効です。
- 手動検出結果には、サポート対象外の機器も表示される場合があります。サポート対象外の機器は登録しないで ください。

検出したノードを登録する

手動検出によって検出したノードを登録する際の操作例を示します。

- 1. 検出されたノードを確認します。
- 2. 検出されたノードの中から登録するノードを選択し、[アクション]-[検出ノード登録]ボタンを選択します。
- 3. ノード名、シャーシ名、Web i/f URL、説明など、登録に必要な情報を入力します。
- 4. ノードのラック搭載位置情報を設定します。
- 5. ノードグループ情報を設定します。
- 6. 登録を実行します。

ノードのアカウント情報には、ノード検出時にノードへのアクセスに成功したアカウント情報が登録されます。

2.2.1.2 データセンター/フロア/ラック/ノードの確認

ノードの 0S 情報の確認

Administratorグループ その他のグループ 実行できるユーザー Admin Operator Monitor Admin Operator Monitor

ノードにOSアカウント情報が登録されている場合には、OSからネットワーク、ディスク、カード情報を確認できます。 ドメインユーザーIDを使用しOSを監視する際にはドメインID欄はActive Directoryのレルム名のFQDNを入力し、ユーザ ー名にはレルム名を除いたユーザー名を入力してください。

その場合、GUIの表示項目には、そのドメインユーザーの権限で取得できる情報のみ表示されます。

監視対象OSに関する設定方法については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。

http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/t

2.2.2 モニタリング機能

監視項目/しきい値の設定



監視項目(値の取得対象の項目)としきい値を設定します。

以下の項目については、ノードの登録時にデフォルトで監視項目として登録されます(実際に管理可能な項目の詳細は機 種によって異なります)。

デフォルトの監視対象	説明
統合ステータス	管理対象ノード自身が持つ、システム全体としてのステータス値(overall status)を監視します。
消費電力	管理対象装置全体としての消費電力や部品ごとの消費電力を監視します。
温度情報	筐体内部の温度や、吸気口の温度などを監視します。
各種LEDステータス	Power LED, CSS LED, Identify LED, Error LEDを監視します。 対象はPRIMERGYのみとなります。

監視項目/しきい値の追加手順

- 1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、「ノードリスト」画面を表示します。
- 2. 対象ノードのノード名を選択します。
- 3. [監視]タブを選択します。
- 4. [監視アクション]ボタンから[追加]を選択し、監視項目を追加します。

修正番号:17 2.2.2 モニタリング機能

アラーム設定の登録

イベントタイプについて

イベントタイプには、以下の種類があります。

イベントタイプ	説明
イベント	ISM内部で検出した各種イベント。
	アラームを発生させる対象となるイベントを重大度で指定します。(複数指定可)
トラップ	監視対象装置から送信されるSNMPトラップ。
	ISM-VA内に登録されているMIB情報を基に、受信可能なトラップの一覧が表示されます。
	アラームを発生させる対象となるトラップを重大度で指定、あるいはここのトラップを指 定します。
	[対象種別]で[システム]を選択した場合は表示されません。
修正番号:18 2.2.2 モニタリング機能 アラーム設定の登録

ポイント

- アラームステータスは、自動的には解除されません。検出された、より優先度の高いステータスが表示されます
- 保守作業による計画的な電源オフを行うとき、それに関連するアラームをISMが検出しないように、監視を一時的に 停止する「メンテナンスモード」の機能があります。
 メンテナンスモードに変更されたノードに対しては、ISMのアラーム検出が抑止されるため、当該ノードで何度もア ラームが発生することを防止できます。
 メンテナンスモードについては、「5.1 メンテナンスモード」を参照してください。

修正番号:19 2.2.2 モニタリング機能

アラームステータスについて

アラームステータスは各ノードに1つ存在する値で、そのノードに関して何らかのISMイベントやSNMPトラップが検出 された場合に変化します。アラームステータスは以下の値を取ります。

アラームステータス	優先度	説明
Error	高	以下のイベントが検出された場合に変化します。
		● ErrorレベルのISMイベント
		● CRITICALレベルのSNMPトラップ
		ISM の GUI 上では、赤色のベルマーク(🎴)で表現されます。
Warning	中	以下のイベントが検出された場合に変化します。
		● WarningレベルのISMイベント
		 MAJORまたはMINORレベルのSNMPトラップ
		ISM の GUI 上では、黄色のベルマーク(🏳)で表現されます。
Info	低	以下のイベントが検出された場合に変化します。
		● InfoレベルのISMイベント
		● INFORMATIONALレベルのSNMPトラップ
		ISM の GUI 上では、青色のベルマーク(🞑)で表現されます。
None	-	何もイベントが検出されていない状態です。
		ISM の GUI 上では、白色のベルマーク (🎑) で表現されます。

アラームステータスがInfo以上の値の場合、各レベルに対応したイベントを検出したことを意味します。[イベント /タスク]タブから「イベント」画面、または[ログ]タブから「受信トラップ」画面を表示し、検出したイベントの内 容を確認してください。

検出したイベントに対して対処・確認が完了した場合は、以下の手順でアラームステータスを解除してください。

- 1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、「ノードリスト」 画面を表示しま す。
- 2. 対象ノードのノード名を選択します。
- 3. [アクション]ボタンから[アラーム解除]を選択します。

ポイント

アラームステータスは、自動的には解除されません。検出された、より優先度の高いステータスが表示されます。

MIBファイルの登録

ISM に MIB ファイルを登録する方法と、登録されている MIB ファイルの確認方法および削除方法について説明します。

MIBファイルについて

MIB とは、SNMP で管理されるネットワーク機器が自分の状態を外部に知らせるために公開する情報のことであり、 RFC 1213 で規定されている MIB2 として標準化されています。MIB ファイルはこの公開情報を定義したテキストベー スのファイルを指します。SNMP トラップをやり取りするためには、受信側が機器側の提供する MIB ファイルを保持 しておく必要があります。

MIBファイルは以下の場合に追加/更新します。

- ・当社外装置から SNMP トラップを受信するために新規 MIB ファイルを追加したい場合
- ・ファームウェアアップデートに伴い、既に ISM に登録済みの MIB ファイルを更新したい場合

注意

- 登録されている MIB ファイルは削除することが可能ですが、削除した MIB ファイルに定義されていた SNMP トラップを受信した場合、不明なトラップとして処理されます。
- 同一トラップが定義された MIB ファイルを複数登録しないでください。同一トラップが定義された MIB ファイルを複数登録した場合、同一トラップを複数受信したように扱われます。

MIBファイルの登録

ISM に登録されていない MIB ファイルを新たに追加します。

- 1. MIB ファイルを用意します。このとき、MIB ファイルに依存関係のある全てのファイルが必要になります。
- 2. ISM-VA に FTP で接続し、MIB ファイルを転送します。
- 3. ISM VA 管理機能から MIB の登録コマンドを実行します。

詳細は「4.19.1 MIB ファイル登録」を参照してください。

ポイント

既にISMに登録されているMIBファイルと同名のファイルを登録することで、MIBファイルをアップデートできます。

MIBファイルの確認

ISM に登録されている MIB ファイル名の一覧を確認します。MIB ファイル名の一覧を確認するには、ISM-VA 管 理機能の MIB ファイル表示コマンドを実行します。 詳細は「4.19.2 MIB ファイル登録」を参照してください。

MIBファイルの削除

ISM に登録されている MIB ファイルの登録を解除するためには、該当する MIB ファイルを削除します。MIB フ ァイルを削除するには、ISM-VA 管理機能の MIB ファイル削除コマンドを実行します。 詳細は「4.19.3 MIB ファイル削除」を参照してください。

注意

MIB ファイルを削除する場合、依存関係に注意してください。依存関係のある MIB ファイルを削除した場合、 トラップを受信できなくなる可能性があります。

修正番号:20 2.2.3 プロファイル管理機能 ^{プロファイル例} 図2.5「プロファイル作成」画面例(GUI)

ServerView I	nfrastructure Manager			Language	? へルブ 、	ISMAdministrator 🗸	FUĴÎTSU
^ダ プロファ1	イル追加						?
1. 基	基本情報		2.詳細	3. 確認			
BIOS	iRMC OS OS個	別情報					_
の参	照リンク設定中 (リンクRX2520_BIOSの	設定に依存されま	す。編集不可。)				
CPU Cor	nfiguration						^
	Execute Disable Bit						
ē	✓ Hyper-Threading	Enabled	O Disabled				
2	Intel Virtualization Technology	Enabled	Disabled				
ĉ	✓ Intel(R) Vt-d	Enabled	Disabled				
2	V Power Technology	O Energy Ef	icient Customize Disabled				
2	Enhanced Speed Step	Enabled	O Disabled		差	し替え画像	
e	🗸 Turbo Mode	Enabled	Disabled				
Memory	y Configuration						
e	DDR Performance	Low-Volta	ge optimized Energy optimized Performance optimized				¥
					戻る	次へ キャン	セル
~ 1	CXServer						

修正番号:21 2.2.3 プロファイル管理機能 プロファイルの編集と再適用手順

_ Administratorグループ _____ _ その他のグループ _

実行できるユーザー Admin Operator Monitor Admin Operator Monitor

ノードに適用したプロファイルを<u>変更</u>再編集し、再度ノードに適用することにより、ノードの設定を変更することができます。

(ただしノードがサーバで、そのプロファイル内に「サーバのOSの設定」が記述されている場合、それらの項目は再編集 することはできません。)

プロファイルがノードに適用された状態でプロファイルの中身を変更再編集することができます。その場合とき、プロフ ァイルを変更再編集してもノードの設定は連動して変化しません。ISM管理上は、プロファイルの内容とノードの設定と の不一致という状態となります。

任意のタイミングで再編集済みのプロファイルをノードに対して再適用してください。再適用が完了するとノードの設定が変更され、再びプロファイルとノードの設定が一致した正常状態になります。

2.2.3 プロファイル管理機能

OS インストール時に必要な準備作業

●事前にOSインストール媒体およびServerView Suite Installation DVDをISM-VA上のリポジトリ領域にコピーしておく 必要があります。この作業を「インポート」と呼びます。

OSインストール媒体のISOイメージをインポートする場合は、ユーザーグループのLVMボリュームサイズを拡張して ください。

ServerView Suite DVDのISOイメージをインポートする場合は、システムのLVMボリュームサイズを拡張してください。

ServerView Suite DVDは、ISM上1度インポートされている場合、インポートする必要はありません。(コーザーグル ープ毎のインポートは必要ありません。)

ServerView Suite DVDのインポートは、ISM管理者(Administratorグループのadministratorユーザー)で行ってくだ さい。全ユーザーグループで共有されるため、ユーザーグループ毎のインポートは必要ありません。

詳細は「<u>2.3.2 リポジトリ管理機能</u>」を参照してください。

●対象ノードでPXEブート機能を利用します。オンボードLANまたはLANカードからPXEブートが可能なように、ネットワーク接続および対象サーバのBIOS設定を事前に完了させてください。また、ネットワーク内に別途DHCPサーバが必要です。PXEブート時に適切なIPv4アドレスを対象ノードにリースできるようにDHCPサーバを設定してください。 詳細については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。

http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverview
ism/

2.2.3 プロファイル管理機能

プロファイル適用時の動作指定

通常、プロファイルは新規にノードに適用するか、適用済みの状態でプロファイルを変更したあとに再適用しますが、適用/再適用のGUI操作途中に、「プロファイル適用」画面で[高度な設定を有効にする]にチェックを付けることで、プロファイル適用時の動作条件を変更できます。また、サーバの場合は、適用する範囲を機能グループ(iRMC、BIOS、OS)ごとに指定できます。

指定可能な動作条件は以下のとおりです。

- 変更がない箇所にも適用を行う プロファイル適用状態で、ノードとプロファイル内容が一致している場合でも、ノードに対して設定を上書きします。 ただし、その場合でも0Sの再適用は実施されません。
- 電源オン状態でプロファイルの適用を実行する サーバにプロファイルを適用する場合、通常は対象ノードの電源をオフにした状態で適用を行う必要がありますが、 本動作を選択すると、対象ノードが電源オンの状態でもプロファイル適用が可能です。 以下の点に注意してください。
 - BIOS設定とiRMC設定の一部はサーバを再起動するまで変更が反映されません。 プロファイル適用が完了した後、任意のタイミングで再起動を実施してください。
 - 0Sが適用対象となる場合は、本モードは選択できません。
- プロファイルをノードに適用せず、ISM上で適用したことにする
 ISMの管理上はプロファイル適用を完了させますが、ノードに対する変更は行いません。そのため、適用後にノードの状態とISM管理状態に差異が発生する場合があります。

修正番号:24 2.2.4.1 ノードのファームウェア版数の確認



GUI を使った操作例を示します。

- 対象ノードの現在のノード情報を取得します。
 ノード情報取得の詳細は、「2.2.1.1 データセンター/フロア/ラック/ノードの登録」の「ノード情報の管理」を参照 してください。
- 2. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択します。
- 3. [カラム表示]欄で[ファームウェア]を選択します。
- 現行バージョン欄を確認します。
 現行バージョン欄が現在動作中のファームウェア版数を表しています。

ポイント

[ノード]画面に表示されるノード数が多くなると、[カラム表示]欄を[ファームウェア]に切り替えた後、画面が表示 されるまでに1分から数分かかります。

その場合は、ログインユーザーが扱うノード数を200ノード以内を目安に制限することで表示時間を短縮することができます。

ログインユーザーあたりの扱いノード数は、ノードグループ機能およびユーザーグループ機能を利用して設定する ことが出来ます。ノードグループ機能の詳細は「2.3.1 ユーザー管理機能」を参照してください。

また、全ノードのファームウェア版数一覧が不要で、特定ノードの版数だけを確認する場合は、目的ノードのノード 詳細画面を表示した上で[ファームウェア]タブに切り替えることにより短時間でファームウェア版数を確認するこ とができます。

2.2.4.2 ファームウェアのアップデート

以下について説明します。

- アップデート時の動作
- ファームウェアアップデートの実施

ファームウェアをアップデートする場合は、事前にファームウェアデータを ISM にインポートする作業が必要となります。

ファームウェアデータを富士通の Web サイトなどからダウンロードし(下図(1))、それを ISM-VA 上のリポジトリに転送 します(下図(2)(3))。ISM はリポジトリに配置されたファームウェアデータを使用して対象ノードのアップデートを 実行します(下図(4))。

リポジトリへファームウェアデータを転送する操作の詳細は、「2.3.2 リポジトリ管理機能」を参照してください。

2.2.4.2 ファームウェアのアップデート

アップデート時の動作

ファームウェアアップデートの対象ノードの種別に応じて、アップデート時およびアップデート後の動作が異なります。 以下に示す表に従ってアップデートを実施してください。

種別	アップデート時およびアップデート後の動作
サーバ (iRMC)	サーバの電源がオン・オフどちらの状態でもアップデートが可能です。
サーバ (BIOS)	サーバの電源がオン・オフどちらの状態でもアップデートが可能です。
	電源オンの状態でアップデートした場合は、新しいファームウェア(BIOS)に切り替え
	るためにサーバの再起動、および電源をオンにする操作が必要です。再起動は任意のタ
	イミングで行ってください。再起動時に自動でファームウェアの適用が行われ、その後
	サーバの電源がオフになります。電源オフになったあとで、ISM の「ノード詳細」画面
	などで電源をオンにすることで新しいファームウェアに切り替わります。
	電源オフの状態でアップデートした場合は、新しいファームウェア(BIOS)に切り替え
	るためにサーバの電源をオンにする操作が必要です。ファームウェアのアップデートが
	完了したタイミングで自動的に電源がオン状態になり、その後サーバの電源がオフにな
	ります。電源オフになったあとで、ISM の「ノード詳細」画面などで電源をオンにする
	ことで新しいファームウェアに切り替わります。
サーバ(搭載 PCI カード)	サーバで、サポート対象 OS が動作している場合にアップデートを実施できます。新し
	いファームウェアが動作するのは再起動後になります。再起動は任意のタイミングで行
	ってください。
スイッチ	ノードの電源がオンの状態でファームウェアアップデートを実施します。ファームウェ
ストレージ	アアップデート後にノードの再起動が実施される場合があります。

修正番号:27 2.2.4.2 ファームウェアのアップデート ファームウェアアップデートの実施

注意

- アップデート中は以下の事項を遵守してください。
 - 対象ノードの電源をオフにしない。
 - 対象ノードの再起動、リセットを行わない。
 - ISMと対象ノードの間のネットワークを切断しない。
 - 管理サーバを再起動しない。管理サーバの電源をオフにしない。
 - リポジトリからファームウェアファイルインポートデータ、ファームウェアデータを削除しない。
- アップデート開始前に、ファームウェアデータ添付のドキュメントなどに記載されている注意事項を確認してください。
- アップデート操作の前に、対象ノードに対して適用可能なファームウェアデータをインポートしておく必要がありま す。

ファームウェアデータのインポートについては、「2.3.2 リポジトリ管理機能」を参照してください。

- ファームウェアの版数を下げることはできません。
- ネットワークスイッチのアップデート後、スイッチはリセットされるため、通信が一時的に切断されます。ネットワークを冗長化している場合は冗長構成の片側ずつ順番にアップデートするなどしてください。
- ETERNUS DX/AFのファームウェアアップデートを行う際は、Maintainerのロールを持つアカウント情報がISMに登録さ れている必要があります。
- PCIカードのファームウェアアップデートを行う際は、PCIカードが搭載されているサーバのOS情報がISMに登録され ている必要があります。

ノードの0S情報の登録については、「2.2.1.1 データセンター/フロア/ラック/ノードの登録」の「ノードの0S情報の 登録」を参照してください。また、PCIカードのファームウェアアップデートは、0Sタイプが以下のもののみ対応し ています。

- \bigcirc CentOS
- \bigcirc Red Hat Enterprise Linux
- サーバに搭載されるPCIカードのファームウェアアップデートは、搭載されている同一種類のカードすべてに対して 実行されます。

同一種類のカードが複数存在する場合、カードごとに異なるファームウェア版数を指示したり、一部のカードだけを アップデート対象とすることはできません。ISM画面上で一部のカードだけをアップデート対象に指定した場合や、 それぞれ異なるファームウェア版数を指定した場合も、同一種類のカードはすべてファームウェアアップデートが実 行され、アップデートされる版数は指示したファームウェア版数の中において、最も新しい版数となります。

● 以下のPCIカードのファームウェアアップデートを行う際には、それらが搭載されているサーバにEmulox OneCommand Manager CLIが導入されている必要があります。

ファームウェア名:LPo1250、LPo12002、LPo16000、LPo16002、0Co10102、0Co14102

Emulex OneCommand Manager CLIの導入については、「2.3.3 Emulex OneCommand Manager CLI、Qlogie QConvergeConsole CLIの導入+を参照してください。

以下のPCIカードのファームウェアアップデートを行う際には、それらが搭載されているサーバにQlogie
 QConvergeConsole CLIが導入されている必要があります。

ファームウェア名:QLE2560、QLE2562、QLE2670、QLE2672

Qlogic QConvergeConsole CLIの導入については、「2.3.3 Emulex OneCommand Manager CLI、Qlogic QConvergeConsole CLIの導入」を参照してください。

 Linux上の富士通PCIカード(FC/CNA/LANカード)のファームウェアアップデートをするためには、対象サーバのOS上 にEmulex OneCommand Manager CLI、または、QLogic QConvergeConsole CLIがインストールされている必要がありま す。.

<u>Emulex OneCommand Manager CLI、Qlogic QConvergeConsole CLIの導入については、「2.3.3 Emulex OneCommand</u>

Manager CLI、Qlogic QConvergeConsoleCLIの導入」を参照してください。

● <u>以下のPCIカードの一部のノード、PCIカードは</u>現行バージョン欄と最新バージョン欄に表示される版数のフォーマットはが異なります。

ファームウェア名:QLE2560、QLE2562、QLE2670、QLE2672

現行バージョン欄には<ファームウェアバージョン>_<BIOSバージョン>が表示され、最新バージョン欄には< BIOSバージョン>が表示されます。該当するノード、PCIカードと表示のされ方は弊社の本製品Webサイトを参照して ください。_

http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/

- 一部のノードはファームウェアアップデートにあたって段階適用を行う必要があります。各ファームウェアデータに 添付されるドキュメントを参照してください。
- サーバ搭載のPCIカードおよびサーバのBIOSのアップデートでは、ISM上でアップデート処理が完了しても古いファー ムウェアで動作しています。新しいファームウェアに動作を切り替えるために、以下の手順を行ってください。
 - サーバ搭載のPCIカードをアップデートした場合は、新しいファームウェアに切り替えるためにサーバの再起動 が必要です。再起動は任意のタイミングで行ってください。
 - 電源オンの状態でサーバのBIOSをアップデートした場合は、新しいファームウェア(BIOS)に切り替えるために サーバの再起動、および電源をオンにする操作が必要です。再起動は任意のタイミングで行ってください。再起 動時に自動でファームウェアの適用が行われ、その後サーバの電源がオフになります。電源オフになったあとで、 ISMの「ノード詳細」画面などで電源をオンにすることで新しいファームウェアに切り替わります。
 - 電源オフの状態でサーバのBIOSをアップデートした場合は、新しいファームウェア(BIOS)に切り替えるために サーバの電源をオンにする操作が必要です。ファームウェアのアップデートが完了したタイミングで自動的に電 源がオン状態になり、その後サーバの電源がオフになります。電源オフになったあとで、ISMの「ノード詳細」画 面などで電源をオンにすることで新しいファームウェアに切り替わります。
- ファームウェアアップデート処理が正常に開始できない場合やアップデートに失敗した場合、通常はISMのアップデート処理はエラー終了します。しかし、アップデート途中で対象ノードが応答しなくなる場合などはタイムアウトエラーの検出は行いません。

想定される作業時間を大きく超えても処理が完了しない場合は、対象ノードの状態を直接確認してください。異常の 場合は、ISM上のファームウェアアップデートのタスクをキャンセルしてください。 目安となるファームウェアアップデートの処理時間については、Webに記載される情報を参照してください。

2.2.4.3 ファームウェアデータに添付されているドキュメントの確認

ファームウェアアップデートを実行する際、ファームウェアインポート時に取り込んだドキュメントを 確認できます。

- 1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択します。
- 2. [カラム表示]欄で[ファームウェア]を選択します。
- 3. アップデートを行うノードにチェックを付け、[アクション]ボタンから[ファームウェア更新]を選択します。
- 4. プルダウンメニューから更新バージョン、リポジトリインポートデータを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
- 5. [ドキュメントURL] 欄で確認したいドキュメントのURLを選択し、ドキュメントを確認します。

ポイント

- ISMを使用したアップデートの方法は、ファームウェアデータに添付されているドキュメントに記載されている方法 とは異なります。
- サーバのiRMC/BIOSのOnlineアップデート方法は、ファームウェアデータに添付されているドキュメントの「オンラ インアップデート」とは異なり、「リモートアップデート」に相当する処理が行われます。ファームウェアデータは ISM-VA内のTFTPサーバから、対象サーバのiRMC Webインターフェースを利用して転送されます。

修正番号:29 2.2.5 ログ管理機能

収集可能なログの種類

ログ管理機能は、ハードウェアログ、オペレーティングシステムログ、ServerView Suite ログの3種類のログが収集可 能です。サポートするハードウェアや OS などの詳細は、弊社の本製品 Web サイトを参照してください。 <u>http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-</u> <u>software/serverviewism/environment/</u>

ハードウェアログ

各種管理対象ノードの装置ログを収集します。

種別	収集対象ノ ード	収集する保管ログ種類	解析および蓄積されるノードログ種類
サーバ	PRIMERGY	SEL	SEL
ストレージ	ETERNUS DX/AF	export log コマンドの出力結果 show events コマンドの出力結果	show events コマンドの出力結果
スイッチ	SR-X	show tech-support コマンドの出力結 果	show logging syslog コマンドの出力結 果 (show tech-support コマンドの出力結 果に含まれている)
	VDX	copy support コマンドで作成される 各種ファイル	show logging raslog コマンドの出力結 果 show logging audit コマンドの出力結 果 (copy support コマンドで作成される <任意の文字列>.INFRA_USER.txt.gz ファイルに含まれている)

2.2.5 ログ管理機能

ログ保管先のディスク容量監視機能

ログファイルは、ノードが所属しているユーザーグループのログ保存領域に保管されます。 本機能はユーザーグループのログ保存領域の容量を監視します。

保管されるログファイルの最大容量は、保管ログ、ノードログ(ダウンロード用データ)、ノードログ(ログ検索用 データ)それぞれ10GBで設定されています。この設定値は変更できません。ISMが保管する各種ログファイル(保管ロ グ、ノードログ(ダウンロード用データ)、ノードログ(ログ検索用データ))の総容量の上限(サイズ制限)とディ スク容量監視(しきい値監視)の設定値はユーザーグループ設定に設定されています。ユーザーグループ設定につい ては、「2.3.1.2 ユーザーグループの管理」を参照してください。

それぞれのログファイル容量各種ログファイルの総容量が設定値に近づくと、ISMの[イベント/タスク]-[イベント]-[運用ログ]に警告/エラーイベントが登録されます。設定値を超えた(エラーイベントが登録された)場合は、新た なログは取得保管されません。

警告/エラーイベントが登録された場合、イベントが発生したノード、または、同じユーザーグループに所属してい る別ノードに対して、手作業で不要なログを削除するか、保管期限を超えたログが自動削除されて空き領域が増える と、新しいログが取得保管されるようになります。

条件	動作
ログのデータ量が設定した容量の 80%	● ログ収集は行う。
を超えた場合	● [イベント]-[運用ログ]に警告イベントが出力される。
<u>ログファイルの総容量がディスク容量</u> 影視の設定値の容量を招きた場合	表示されるメッセージは以下のような内容になります。
<u> </u>	○ 保管ログの場合
上限設定値が10GB、ディスク容量監視	保管ログ保存領域のデータ量がしきい値を超過しました。
の設定値が 80%の場合、ログファイル	「保管ログの削除」参照
の総容量が 8GB を超えると右記動作を 行います	○ ノードログ (ダウンロード用データ) の場合
114.2.2.	ノードログ (ダウンロード用データ) 保存領域のデータ量がし
	きい値を超過しました。
	「 <u>ノードログの削除</u> 」参照
	○ ノードログ(ログ検索用データ)の場合
	ノードログ (ログ検索用データ)保存領域のデータ量がしきい
	値を超過しました。
	「 <u>ノードログの削除</u> 」参照
ログのデータ量が設定した容量を超え	● ログ収集を行わない。
た場合	● [イベント]-[運用ログ]にエラーイベントが出力される。
<u> </u>	表示されるメッセージは以下のような内容になります。
例)	○ 保管ログの場合
<u>上限設定値が 10GB の場合、ログファイ</u>	保管ログ保存領域の設定容量を超過しました。
ルの総容量が 10GB を超えると右記動	「 <u>保管ログの削除</u> 」参照
作を行います	○ ノードログ(ダウンロード用データ)の場合
	ノードログ (ダウンロード用データ) 保存領域の設定容量を超
	過しました。
	「 <u>ノードログの削除</u> 」参照
	○ ノードログ(ログ検索用データ)の場合
	ノードログ (ログ検索用データ)保存領域の設定容量を超過し
	ました。
	「 <u>ノードログの削除</u> 」参照

修正番号:31 2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク管理機能は主に以下の用途で利用する機能です。

- 管理対象ノード間の物理のネットワーク接続情報やポートの情報を確認
- 管理対象ノード間のネットワーク接続情報の変化を確認
- 管理対象ノードの物理的なポートとそのノード上の仮想マシン、仮想スイッチの仮想的なポートとの仮想的な接続 関係を確認
- VLAN、LAGリンクアグリゲーション設定を確認、変更

修正番号:32 2.2.6 ネットワーク管理機能



修正番号:33 2.2.6 ネットワーク管理機能

以下について説明します。

- ネットワーク接続情報の表示
- ネットワーク管理情報の更新
- ネットワーク接続の変化情報の確認
- ネットワーク接続の変化情報の基準設定
- VLAN、LAG_リンクアグリゲーション設定の確認
- VLAN 設定の変更
- リンクアグリゲーション設定の変更
- 手動でのネットワーク接続情報の設定

修正番号:34 2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続情報の表示



管理対象ノード間のネットワーク接続情報をネットワークの接続図(ネットワークマップ)としてグラフィカルに確認 できます。簡単な操作で各管理対象ノードやそのポートの状態を含む詳細な情報が表示されます。サーバ、ネットワー クスイッチの接続関係を1つの画面で確認できます。加えて、管理対象ノードの物理的なポートとそのノード上の仮想 マシン、仮想スイッチの仮想的なポートとの仮想的な接続関係が確認できます。

修正番号:35 2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続情報の表示

ポイント

- ネットワークマップでは、ネットワークノードリストから選択したノードと接続関係にあるノードが表示されます。 ネットワークマップ上のノードの[〉]アイコンをクリックすると、ノード内のポートが展開表示されます。
- [ネットワークマップ]画面に表示されるノード数が多くなると、ネットワークマップ画面が表示されるまでに1分から数分かかります。
 その場合は、ログインユーザーが扱うノード数を200ノード以内を目安に制限することで表示時間を短縮することができます。

ログインユーザーあたりの扱いノード数は、ノードグループ機能およびユーザーグループ機能を利用して設定することができます。ノードグループ機能の詳細は「2.3.1 ユーザー管理機能」を参照してください。

修正番号:36 2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続情報の表示

注意

- ネットワークの接続情報はLLDP (Link Layer Discovery Protocol) を利用して取得されます。LLDPに対応していな いノードやLLDPが無効になっている場合、実際に接続が存在していても接続情報は取得できません。ノードのLLDP対応の有無、ノードのLLDP設定の有効・無効の確認方法については、各ノードの仕様を確認してください。
- 表示される接続図ネットワークマップは、前回の「ネットワーク管理情報の更新]操作時に取得した状態、またはISM による1日1回の定期的なネットワーク管理情報の更新時の状態になります。ノード登録後、接続変更後または異常発生時などに最新状態を確認する場合は「アクション」ボタンから「ネットワーク管理情報の更新]を実行してください。また、ノードのハードウェア構成変更後は、対象ノードの「ノード詳細」画面で「ノード情報取得]を実行後に、「ネットワーク管理情報の更新]を実行してください。定期的なネットワーク管理情報の更新は、AM4:00に実行が開始されます。
- 仮想スイッチ、仮想マシンの接続関係を表示するためには管理対象ノードを管理している仮想化管理ソフトウェアを ISMに登録し、管理対象ノードの0S情報を登録しておく必要があります。仮想化管理ソフトウェアの登録については 「2.3.6 仮想化管理ソフトウェア管理機能」、0S情報の登録については「2.2.1.1 データセンター/フロア/ラック/ノ ードの登録」をご参照ください。

修正番号:37 2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク管理情報の更新

	Administratorグループ	┌ その他のグループ ―――		
実行できるユーザー	Admin Operator Monitor	Admin Operator Monitor		

ネットワーク接続情報は定期的に最新情報に更新されます。また、ユーザーの任意のタイミングで手動更新することもで きます。以下はネットワーク管理情報の更新の操作手順です。

操作手順

- 1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。
- 2. [アクション]ボタンから[ネットワーク管理情報の更新]を選択します。
- 3. [<u>更新はい</u>]ボタンをクリックします。

注意

ネットワーク管理情報の更新中に、ネットワーク接続情報の取得および、各ノードへの設定はできません。情報更新の完 了後に操作してください。

ポイント

- ネットワーク管理情報の更新は管理対象ノードの数に応じて時間がかかります。情報更新の完了は、イベント/タスクの運用ログで更新の完了を示すイベントを確認してください。
- ネットワーク管理情報の最終更新時刻はネットワークマップ右上に表示されます。この最終更新時刻は最後に情報の 更新が完了した時刻を指します。
- ネットワーク管理情報は、1日に1度、AM4:00に定期的に更新されます。
- ネットワーク管理情報の更新は、各ノードの情報の更新後に実行することで最新化できます。

修正番号:38 2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続の変化情報の確認

Administratorグループ その他のグループ 案行できるユーザー Admin Operator Monitor Admin Operator Monitor

ネットワークマップでは、設定された基準時点からのネットワーク接続の状態変化を確認できます。状態変化の種類には 「追加」と「削除」があります。

「追加」は接続の追加などの新規の接続が検出された場合です。「追加」された接続は、接続図中<u>ネットワークマップ上</u>に太実線で表示されます。

「削除」は接続断や接続の撤去によりこれまで検出していた接続が存在しなくなった場合です。「削除」された接続は接続回中ネットワークマップ上に太破線で表示されます。

本機能を使用してネットワーク接続の変化を捉え、ネットワークの接続断を検出し、その箇所を特定できます。

また、以下の操作手順により、ネットワーク接続の変化情報をリスト形式で確認できます。

修正番号:39 2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続の変化情報の確認

ポイント

現在設定されている「基準時点」は、[接続情報変化の確認]の[最終更新日時]で確認することができます。

注意

[接続情報変化の確認]で[更新]ボタンをクリックした場合、基準時点が更新されて、変化情報が削除されます。

修正番号:40 2.2.6 ネットワーク管理機能

ネットワーク接続の変化情報の基準設定



ネットワーク接続の変化情報は、ある基準時点からの変化(追加、削除)を表示したものです。この基準時点を更新でき ます。基準時点はネットワーク接続の構成を変更した場合などに設定します。基準時点を更新すると、その時点から「追 加」または「削除」によって変化したネットワーク接続情報が表示されます。 以下の操作手順で更新できます。

操作手順

- ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。 画面左側のネットワークノードリストに、ネットワークマップ表示対象のノード一覧がツリー構造で表示されます。
- ネットワークノードリストから、確認したいネットワーク接続のポイントとなるノードを選択します。
 ネットワークマップを開いた時点では、ネットワークノードリストの一番上のノードが選択された状態になっています。

画面中央にネットワークマップが表示されます。

- 3. [アクション]ボタンから[接続変化情報の確認]を選択します。最終更新の日時が現在設定されている基準時点です。
- [更新]ボタンをクリックします。
 確認画面が表示されます。
- 内容を確認し、[はい]ボタンをクリックします。
 基準時点が更新操作を実行した時刻に更新されます。

ポイント

ネットワーク接続の変化情報の基準設定は、ISMのサービスの初回起動時のみ自動的に更新されます。

修正番号:41 2.2.6 ネットワーク管理機能

VLAN、LAGリンクアグリゲーション設定の確認

Administratorグループ その他のグループ 実行できるユーザー Admin Operator Monitor Admin Operator Monitor

ネットワークスイッチに設定された VLAN、LAG-リンクアグリゲーションの設定状態を専用の GUI 画面で確認できま す。

ネットワーク接続図<u>マップ</u>上で、設定を視覚的に確認できます。

操作手順(VLANの例)

- ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。
 画面左側のネットワークノードリストに、ネットワークマップ表示対象のノード一覧がツリー構造で表示されます。
- ネットワークノードリストから、確認したいネットワーク接続のポイントとなるノードを選択します。
 ネットワークマップを開いた時点では、ネットワークノードリストの一番上のノードが選択された状態になっています。

画面中央にネットワークマップが表示されます。

- 3. <u>[アクション]ボタンから[VLAN表示]-[表示設定]を選択します。VLAN IDのテキストボックスに表示したいVLANのIDを</u> 入力しま<u>す。</u>
- 4. 表示したいVLAN IDを入力し、[表示]ボタンをクリックします。

操作手順(LAGリンクアグリゲーションの例)

- ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。 画面左側のネットワークノードリストに、ネットワークマップ表示対象のノード一覧がツリー構造で表示されます。
- ネットワークノードリストから、確認したいネットワーク接続のポイントとなるノードを選択します。
 ネットワークマップを開いた時点では、ネットワークノードリストの一番上のノードが選択された状態になっています。

画面中央にネットワークマップが表示されます。

3. <u>ネットワークマップ左上に表示されているプルダウンメニューから[リンクアグリゲーション]を選択します。ネット</u> ワークマップ上のノードの[>]アイコンをクリックすると、ノード内のポートが展開されリンクアグリゲーションの 設定が表示されます。

修正番号:42 2.2.6 ネットワーク管理機能

VLAN設定の変更

Administratorグループ その他のグループ 実行できるユーザー Admin Operator Monitor Admin Operator Monitor

ネットワークスイッチの VLAN 設定を変更することができます。

操作手順

- 1. ISM の GUI でグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。
- 画面中央にネットワークマップが表示されます。 ネットワークマップを開いた時点では、画面左上のネットワークノードリストの先頭のノードが選択された状態に なっているので、設定したいネットワーク接続のポイントとなるノードを選んで、選択状態にします。
- 3. ネットワークマップ左上に表示されるプルダウンメニューから[一括設定]を選択します。
- ネットワークマップ内のノードの[>]アイコンをクリックすると、ノード内のポートが展開表示されるので、同じ VLAN IDを設定したいポートをそれぞれクリックしてチェックを入れ、[アクション]ボタンから[VLAN 一括設定]を 選択します。
- 5. 設定する VLAN ID を入力、内容を編集し、[確認]ボタンをクリックします。
- 6. 設定の変更内容を確認し、[登録]ボタンをクリックすると VLAN 設定が変更されます。

注意

- VLAN 設定はネットワークスイッチのモデルによって仕様が異なる場合があります。装置仕様を確認した後、設定を 行ってください。
- 管理対象ノードに一度に設定可能なポート数は1つ、VLAN IDの数は100個までとなります。
- ネットワークスイッチのモデルによって予約済みの VLAN ID が存在します。予約済みの VLAN ID については設定の 変更ができません。各ノードの仕様を確認してください。

リンクアグリゲーション(LAG)設定の変更



ネットワークスイッチのリンクアグリゲーション設定を変更することができます。

操作手順(追加の例)

- 1. ISM の GUI でグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択します。
- ネットワークノードリストから、設定したいネットワーク接続のポイントとなるノードを選択します。
 ネットワークマップを開いた時点では、ネットワークノードリストの一番上のノードが選択された状態になってい
- イットワークマッフを開いた時点では、イットワークフートリストの一番上のフートが選択された状態になってい ます。 一下であった。 しょう デザオニット・
- 画面中央にネットワークマップが表示されます。3. [アクション]ボタンから[LAG 設定]を選択します。
- 4. リンクアグリゲーションを設定する対象のノード名を選び、リンクアグリゲーション設定の「追加」を選択します。
- LAG 名、動作モードを入力し、リンクアグリゲーションを設定するポートにチェックを入れ、[確認]ボタンをクリックします。
- 6. リンクアグリゲーションの設定内容を確認し、[登録]ボタンをクリックします。

注意

- リンクアグリゲーション設定はネットワークスイッチのモデルによって仕様が異なる場合があります。装置仕様を 確認した後、設定を行ってください。
- ネットワークスイッチのモデルによって設定可能な LAG 名が異なります。設定可能な LAG 名の範囲については各ノードの仕様を確認してください。
- ネットワークスイッチのモデルによって設定可能な動作モードが異なります。設定可能な動作モードについては各 ノードの仕様を確認してください。
- VLAN ID が異なるポート同士でリンクアグリゲーションを組むことはできません。ポート同士が同じ VLAN 設定となっていることを確認してリンクアグリゲーション設定を行ってください。
- 異なるノード間で MLAG を設定する場合、各スイッチに対してリンクアグリゲーション設定の変更を行う必要があります。

修正番号:43 2.3.1 ユーザー管理機能 2.3.1.2 ユーザーグループの管理

ユーザーグループの追加

Administratorグループ その他のグループ 実行できるユーザー Admin Operator Monitor Admin Operator Monitor

ISM 管理者が、以下の方法で新しくユーザーグループを追加します。

- 1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[基本設定]-[ユーザーグループ]を選択します。
- 2. [アクション]ボタンから[追加]を選択します。

ユーザーグループを追加する場合に設定する情報は、以下のとおりです。

- ユーザーグループ名
 - ISM全体で、ユニークな名称を指定してください。
- 認証方法

ユーザーグループに属するユーザーの認証方法は、以下のどちらかを指定します。

- ISM認証
- Microsoft Active DirectoryまたはLDAP連携認証
- 説明

ユーザーグループの説明(コメント)を入力してください。入力内容は任意です。

• ディレクトリサイズ

ユーザーグループで使用するファイルの総容量の上限と警告の通知しきい値を指定できます。

用途	サイズ制限	しきい値監視
ユーザーグル	● 有効時	● 有効時
ープ全体	ユーザーグループで使用するファイルの総容 量を[最大サイズ(MB)]に、MB単位で指定しま す。 ファイルの総容量とは、以下のデータの合計 を意味します。 - リポジトリ - 保管ログ - ノードログ - FTPでISM-VAに取り込むファイル 指定した「最大サイズ(MB)」に対して、実際 の使用量がその値を超えた場合、運用ログに エラーメッセージが出力されます。 ただしその場合でも、リポジトリ、保管ロ グ、ノードログの各々の動作に影響しませ ん。	警告メッセージを出力するしきい値を[警告 しきい値(%)]に指定します。%単位で指定し てください。警告メッセージは運用ログに出 力されます。
リポジトリ	 有効時 リポジトリにインポートするファイルの総容 量を[最大サイズ(MB)]に、MB単位で指定しま す。 指定した「最大サイズ(MB)」に対して、イン ポートしたファイルの総使用量がその値を超 えた場合、実行中のリポジトリへのインポー 	指定できません。
	トはエフーになり、エラーメッセージが運用 ログに出力されます。	

保管ログ	保管ログの総容量を[最大サイズ(MB)]に、MB 単位で指定します。 指定した「最大サイズ(MB)」に対して、保管 ログの総容量がその値を超えた場合、新たに 発生したログは保管されなくなり、運用ログ にエラーメッセージが出力されます。	警告メッセージを出力するしきい値を[警告 しきい値(%)]に指定します。%単位で指定し てください。警告メッセージは運用ログに出 力されます。
	なわ、「取入サイス(MB)」の設定値を、テノオ ルトの「0」のままにしておくと、発生した ログは保管されず、そのたびに運用ログにエ ラーメッセージが出力されます。 値を超える前に保管されたログはそのまま保 管されます。	
ノードログ	ダウンロード用データとログ検索用データの 各々の総データ容量を[最大サイズ(MB)]に、 MB単位で指定します。 (ログ検索用データは、Administrator ユー ザーグループにのみ指定できます。) ダウンロード用データ、ログ検索用データの いずれかにおいて、指定した「最大サイズ (MB)」に対して総データ容量がその値を超え た場合、同時に容量のデータが出力されなく なり、運用ログにエラーメッセージが出力さ れます。 なお、いずれか、もしくは両方のデータの 「最大サイズ(MB)」の設定値を、デフォルト の「0」のままにしておくと、どちらのデー タも出力されず、運用ログにエラーメッセー ジが出力されます。	ダウンロード用データの容量とログ検索用デ ータの容量に対して、警告メッセージを出力 するしきい値を[警告しきい値(%)]に値を指 定します。%単位で指定してください。警告 メッセージは運用ログに出力されます。

リポジトリにインポートするファイルの総容量、保管ログの容量、ノードログ(ダウンロード用データ、ログ検索 用データ)の容量の見積り方法については、「3.2.1 ディスク資源の見積り」を参照してください。

ノードグループを選択してください。

ノードグループを選択することで、ユーザーグループとノードグループの関連付けを行います。

注意

- ユーザーグループに関連付けられるノードグループは1つだけです。
- ユーザーグループに所属する各ユーザーは、そのユーザーグループに関連付けられたノードグループに所属するノ ードだけを操作対象にできます。ユーザーグループに関連付けられていないノードグループのノードにはアクセス できません。
- ユーザーグループ作成後は、すぐに「3.7.2 ユーザーグループに対する仮想ディスク割当て」手順を行ってください。





以下の方法で、ユーザーグループの情報を編集します。

- 1. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[基本設定]-[ユーザーグループ]を選択します。
- 2. 以下のどちらかを行います。

- 編集したいユーザーグループにチェックを付け、[アクション]ボタンから[編集]を選択します。
- 編集したいユーザーグループ名をクリックし、表示された情報画面で[アクション]ボタンから[編集]を選択しま す。

編集できる情報は、以下のとおりです。

- ユーザーグループ名
- 認証方法
- 説明
- ディレクトリサイズ
 編集内容は、「ユーザーグループの追加」の「ディレクトリサイズ」を参照してください。
- ノードグループを選択してください
 ノードグループを選択することで、ユーザーグループとノードグループの関連付けを行います。

注意

- Administratorグループのグループ名は、変更できません。
- Administratorグループの認証方法には、「ISM」のみ指定できます。
- ユーザーグループに関連付けられるノードグループは1つだけです。
 - ノードグループに関連付けられた状態のユーザーグループに、新たに別のノードグループとの関連付けを行った場 合、関連付けられていたノードグループとの関連付けは解除されます。

修正番号:44 2.3.1.3 Microsoft Active Directory または LDAP との連携

設定手順

- 1. Microsoft Active DirectoryまたはLDAP(以降、「ディレクトリサーバ」と表記)と連携するユーザーを、ディレクトリサーバに登録します。
- 2. Administratorグループに属し、Administratorロールを持つユーザーでISMにログインします。
- 3. ディレクトリサーバ情報が設定されていない場合、ISMのLDAPサーバの設定で、以下の情報を設定します。

設定内容については、ディレクトリサーバの管理者に、手順1で登録した設定内容を問い合わせてください。

項目	設定内容
LDAPサーバ名	ディレクトリサーバ名を指定します。以下のどれかを指定します。
	● URLまたはIPアドレス
	● ldap://url または ldap://IPアドレス
	● ldaps://url または ldaps://IPアドレス
ポート番号	ディレクトリサーバのポート番号を指定します。
ベースDN	アカウント検索用のベースDNを指定します。ディレクトリサーバの登録内容に依存します。
	例)
	● LDAPの場合:ou=Users,ou=system
	● Microsoft Active Directoryの場合:DC=company,DC=com
検索属性	アカウント検索用のアカウント属性を指定します。以下のどちらかの固定文字列を指定し
	ます。
	● LDAPの場合:uid
	● Microsoft Active Directoryの場合:sAMAccountName
バインドDN	ディレクトリサーバ上で、検索できるアカウントを指定します。ディレクトリサーバの登
	録内容に依存します。
	例)
	● LDAPの場合:uid=ldap_search,ou=system
	● Microsoft Active Directoryの場合:
	CN=1dap_search,OU=user_group,DC=company,DC=com
	anonymousはサポートしていません。
パスワード	バインドDNで指定したアカウントのパスワードを指定します。

- 4. 認証方法にMicrosoft Active DirectoryまたはLDAPを設定したユーザーグループを用意します。
- 5. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[基本情報]を選択し、[ユーザー]を選択して、手順 1で登録したユーザーを追加します。

登録する情報は以下のとおりです。

項目	設定内容
ユーザー名	手順1で登録したユーザー名を指定します。
パスワード	手順1のパスワードとは異なり、連携を解除した場合のパスワードを指定します。
	なお、ここで指定したパスワードが、FTPでログイン時に使用するパスワードとなります。
ユーザーロール	ISMでのユーザーロールを指定します。
説明	自由な値を指定します。
計	追加するユーザーで使用する言語を指定します。
日付フォーマット	追加するユーザーで使用する日付フォーマットを指定します。
タイムゾーン	追加するユーザーで使用するタイムゾーンを指定します。

項目	設定内容
ユーザーグループ名	手順4で用意したユーザーグループを指定します。

手順5で登録したユーザーがログインできることを確認します。
 ログインできない場合、手順3に戻ってください。

注意

Ē

administrator ユーザーは、Microsoft Active Directory または LDAP と連携できません。

2.3.1.4 ノードグループの管理

ノードグループの編集

- ノードグループを編集する場合に設定する情報は、以下のとおりです。
- ノードグループ名
 ISM全体で、ユニークな名称を指定してください。
 エキレキャレルエス・レンドアセレー
- 新たに割り当てるノードを選択
 所属ノードグループが[未割り当て]のノードを複数選択します。

ノードの割当てを解除または変更するには、以下の手順で行います。

- 7. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノードグループ]を選択します。
- 8. 画面左側のノードグループリストからノードグループを選択します。
- 9. 画面右側でノードを選択し、[ノードアクション]ボタン<u>(画面右上に2つある[アクション]ボタンのうち、下のボタ</u> ン)から[ノードグループへ割り当て]を選択します。
- 10. 「ノードグループへの割り当て」画面で、[選択]ボタンをクリックします。
- 11. 「ノードグループ選択」画面で以下のどちらかを選択し、[選択]ボタンをクリックします。
 - ノード割当てを解除する場合:[未割り当て]
 - ノード割当てを変更する場合:[<新たに割り当てるノードグループ>]
 - 「ノードグループへの割り当て」画面で[適用]ボタンをクリックします。

2.3.2 リポジトリ管理機能

リポジトリは、ISM が利用する各種リソースを保管する場所です。各種リソースは、ユーザーグループに関連していま す。主に以下の用途で利用します。

- ファームウェアアップデート用のデータを保管
 - 「<u>ファームウェア管理機能</u>」、「<u>プロファイル管理機能</u>」で利用されます。
- 0Sインストール用の0Sインストール媒体を保管 「プロファイル管理機能」で利用されます。
- 0Sインストールに使用するServerView Suite DVDを保管
 「<u>プロファイル管理機能</u>」で利用されます。

ポイント

リポジトリのディスク領域には、ISM-VA に仮想ディスクを割り当てます。仮想ディスクの割当て方法については、 「<u>3.2.1.2 リポジトリの必要容量の見積り</u>」および「<u>3.6 仮想ディスクの割当て」</u>を参照してください。

注意

リポジトリのディスク領域が不足している場合、リポジトリ管理機能の各種データの保存に失敗します。「3.2.1.2 リポジトリの必要容量の見積り」および「3.7 仮想ディスクの割当て」、「2.3.1.2 ユーザーグループの管理」を参照してリポジトリに対して十分なディスク領域を割り当ててください。

修正番号:47 2.3.2 リポジトリ管理機能

ファームウェアデータの保存

操作例を示します。

- 準備したファームウェアデータを、FTPを使ってISM-VAへ転送します。ISOイメージまたはZIP圧縮されたファームウェアデータを展開したフォルダーを管理サーバへ転送します。
 転送方法の詳細は、「2.1.2 FTPアクセス」を参照してください。
- 2. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[リポジトリ]を選択します。
- 3. 以下のどちらかを行います。
 - ファームウェアデータをDVDからリポジトリに保存する場合は、[リポジトリ<u>インポートデータリスト</u>]タブの[ア クション]ボタンから[DVDインポート]を選択します。
 - ファームウェアデータを富士通のWebサイトからリポジトリに保存する場合は、[ファームウェアインポートデー タリスト]
 タブの[アクション]ボタンから[ファームウェアインポート]を選択します。
- 4. 画面表示に従い、操作を実行します。

リポジトリからのファームウェアデータの削除

・ファームウェアデータをDVDからリポジトリに保存していた場合

- 1. [カラム表示]欄で[リポジトリインポートデータリスト]タブを選択します。
- 2. 削除を行う対象にチェックを付け、[アクション]ボタンから[削除]を選択します。
- 3. 画面表示に従い、操作を実行します。
- ・ファームウェアデータを富士通のWebサイトからリポジトリに保存していた場合
 - 1. [カラム表示]欄で[ファームウェアブームウェアデータ]タブを選択します。
 - 2. 削除を行う対象にチェックを付け、[アクション]ボタンから[削除]を選択します。
 - 3. 画面表示に従い、操作を実行します。

ファームウェアデータのインポート

 Administratorグループ
 その他のグループ

 実行できるユーザー
 Admin Operator Monitor

 Admin Operator Monitor
 Admin Operator Monitor

管理対象ノードによって使用するファームウェアイメージ<u>デ</u>ータが異なります。下表のデータを準備してください。デー タが DVD 形式の場合は、ISO イメージファイルを準備してください。
ファームウェアイメージ<u>デ</u>ータ入手先

下記のWebサイトから対象モデルのファームウェアデータをダウンロードしてください。

対象ファームウェア	ファームウェア タイプ(種類)	入手先
PRIMERGY本体 iRMC	iRMC	http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/down
PRIMERGY本体 BIOS	BIOS	loads/
PRIMERGY搭載カード	FC	http://support.ts.fujitsu.com/globalflash/FibreChannelController/
類	CNA	http://support.ts.fujitsu.com/globalflash/LanController/
ネットワークスイッチ	LAN Switch (SR-Xモデル)	http://www.fujitsu.com/jp/products/network/download/sr-x/firm/
基本ソフトウェア	LAN Switch (VDXモデル)	http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/ [注1]
ストレージ コントローラー	ETERNUS DX/AF	<u>http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/</u> [注1] <u>http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/storage/download/</u> [注 2]

[注1]ご利用にはSupportDesk契約が必要です。

[注2]ご利用には「富士通ID(登録無料)」が必要です。

ServerView Suite Update DVDイメージ入手先

以下のPRIMERGYダウンロード検索画面で、「製品名」欄でご利用の製品名を選択し、「添付ソフト/ドライバ名称(部 分一致可)」欄に「Update DVD」と入力して検索してください。

 $\underline{http://azby.\,fmworld.\,net/app/customer/driversearch/ia/drviaindex}$

注意

ISM2.0では、Update DVD内に含まれるファームウェアデータでファームウェアアップデートに使用できるものは、ファームウェアタイプがFC、CNAのものだけです。

Administratorグループに所属するadministratorユーザーでファームウェアデータをインポートする場合の操作例を示 します。

- 1. ファームウェアイメージデータ入手先から、ファームウェアイメージデータを入手します。
- 2. ISOイメージファイルを利用しない場合は、任意のフォルダーにダウンロードしたファイルを格納します。 ダウンロードしたファイルが圧縮ファイルの場合は、フォルダー内で展開してください。

		RX2530M1					. o x
77-66 赤-ム 共同	表示						^ O
22- MOHU ≥ 50-10 22- MOHU ≥ 50-10 79x7#-5	i C- byhofaortu	日本 21-元 N時 25元の 日本 日本	рания калана лия- ша	רייסר פייסר			に選択 RMENB Rの4Dの結え 選択
🛞 🛞 – † 📕 • R	X2530M1		× 0		X2530M10A	2R	٩
> 宮 お気に入り	8.41	•	更新日時		23		94X
> 1 PC > • • + ++>-9	ASP, ASP, ASP, Offic Rem relex 775 725 1020 VE-	_Linux _Windows Me wery obe sse-note_RX2530M1_PGY1188.bd インアップテート手順書.pdf インアップテート手順書.pdf NIES読みください.pdf トアップテート手順書.pdf	2016/06/30 2016/06/30 2016/06/30 2016/06/30 2016/06/30 2016/06/10 2016/03/15 2016/03/09 2016/03/15	16:42 16:42 16:42 16:42 16:42 10:22 15:33 20:38 20:38 15:33	27474 280 27474 280 27474 280 27474 280 27474 280 27474 280 284 284 284 284 284 284 284 284 284 284	13- 13- 13- 13- 13- 13- 1-	20 KB 520 KB 386 KB 336 KB 571 KB
10 個の項目	¢						

3. FTPを使ってISM-VAへ転送します。

-FTPコマンドまたはFTPクライアントソフトウェア(FFFTP、WinSCPなど)を使って転送してください。その際、文字 コードがUTF-8で変換されるように設定してください。Windows Explorerを使用すると文字コードが正しく扱われな いため、使用しないでください。

-FTPクライアントソフトウェアからISM-VAヘログイン後、ルートディレクトリから「<ユーザーグループ名>/ftp」 ディレクトリへ移動し、そのディレクトリに転送を行います。

-ISOイメージファイルを利用しない場合は、必ずフォルダー構造を変更せずに転送してください。

4. ファームウェアデータをインポートします。

a. ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[リポジトリ]を選択します。

b. 以下のどちらかを行います。

-ISOイメージファイルをリポジトリにインポートする場合は、[リポジトリ][<u>インポートデータリスト</u>]の [アクション]ボタンから[DVDインポート]を選択します。

画面表示に従い、ファイルの配置場所、メディアの種類を選択して、[適用]を選択します。

-ISOイメージファイルを利用せずにリポジトリにインポートする場合は、

[ファームウェア] [<u>インポートデータリスト</u>]の[アクション]ボタンから[ファームウェアインポート] を選択します。

画面表示に従い、ファイルの配置場所、種類、モデル、バージョンを入力して、[適用]を選択します。 入力するバージョンは、下記の表に従って入力してください。

種類	モデル	バージョン
iRMC	RX100 S8、CX2550 M1など	iRMCとSDRのバージョン[注1]
BIOS	RX100 S8、CX2550 M1など	BIOSのバージョン[注1]
FC	LPe1250, LPe12002	BIOSとFWのバージョン[注2]
	LPe1600、LPe16002_LPe1250、 LPe12002以外のLPeXXX	ファームウェアのバージョン[注2]
	QLE2560、QLE2562、QLE2600、 QLE2602 QLEXXX	BIOSのバージョン[注2]
can	0ce10102など	ファームウェアのバージョン[注1]

種類	モデル	バージョン
LAN Switch	SR-Xモデル	基本ソフトウェアのバージョン[注1]
	VDXモデル	ファームウェアのバージョン[注1]
ETERNUS DX/AF	ETERNUS DX/AFモデル	ファームウェアのバージョン[注1]
「汁1」バー・ジョン/	マクレアは リリーフノートを参	四トアノだキい

[注1]バージョンについては、リリースノートを参照してください。

[注2]バージョンについては、リリースノートまたはファイル名を参照してください。

リポジトリのインポートには時間がかかることがあります。インポートの開始後、作業がISMのタスクとして登録されます。作業の状況は「タスク」画面で確認してください。

ISMのGUIでグローバルナビゲーションメニューから[イベント/タスク]-[タスク]を選択すると、「タスク」画面にタ スクの一覧が表示されます。

ポイント

- ISMのFTPサーバに配置したファイルはインポートが完了したあとは不要です。FTPのコマンドを使用して削除してく ださい。
- FTPクライアントソフトウェアを使ってファイル転送を行う際、文字コードがUTF-8で変換されるように設定してください。文字コードの変換が正常に行われないと、ISM-VA上でファイルが文字化けを起こすことがあり、正しくインポートが実行できない場合があります。インポートが正しく行われない、インポートしたドキュメントが表示されないなどの場合は、インポート済みのファームウェアデータおよび、ISM-VA上へFTP転送したファイルを削除し、文字コード変換の設定を見直したうえで、再度インポートを行ってください。

修正番号:48 2.3.3 Emulex OneCommand Manager CLI、Qlogic QConvergeConsole CLIの 導入

注意

•	Linux上の富士通PCIカードのファームウェアアップデートをするためには、対象サーバのOS上にEmulex OneCommand
	Manager CLI、または、QLogic QConvergeConsole CLIがインストールされ、対象のPCIカード情報が取得できる状態
	である必要があります。インストール、操作方法は、Emulex One Command Manager CLIのマニュアル、QLogic
	QConvergeConsole CLIのマニュアルを参照してください。Emulex OneCommand Manager CLIのインストールが必要に
	なる型番は、以下のとおりです。
	PG-FC203, PGBFC203, PG-FC203L, PGBFC203L, PG-FC204, PGBFC204, PG-FC204L, PGBFC204L, -
	PY-FC201, PYBFC201, PY-FC201L, PYBFC201L, PY-FC202, PYBFC202, PY-FC202L, PYBFC202L,
	PY-FC221, PYBFC221, PYBFC221L, PY-FC222, PYBFC222, PYBFC222L,
	PY-CN302, PYBCN302, PYBCN302L, PY-CN202, PYBCN202, PY-CN202L, PYBCN202L,
	PY-LA3A2, PYBLA3A2, PYBLA3A2L, PY-LA3B2, PYBLA3B2, PYBLA3B2L
	<u>QLogic QConvergeConsole CLIのインストールが必要になる型番は、以下のとおりです。</u>
	PG-FC205, PGBFC205, PG-FC205L, PGBFC205L, PG-FC206, PGBFC206, PG-FC206L, PGBFC206L, -
	PY-FC211, PYBFC211, PY-FC211L, PYBFC211L, PY-FC212, PYBFC212, PY-FC212L, PYBFC212L,
	PY-FC311, PYBFC311, PYBFC311L, PY-FC312, PYBFC312, PYBFC312L
	Emulex OneCommand Manager CLI、QLogic QConvergeConsole CLIのインストールが必要になるPCIカードは弊社の本
	製品Webサイトを参照してください。
	http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/
•	Linux上のPCIカードのファームウェアアップデートをするためには、対象サーバ上のLinuxでlsnciコマンドが実行で

 Linux上のPCIカードのファームウェアアップデートをするためには、対象サーバ上のLinuxでlspciコマンドが実行で きる必要があります。

2.3.5.1 ISM-VA 管理機能のコマンド一覧

保守機能

機能	コマンド
保守ログ採取	ismadm system snap
システム情報の表示	ismadm system show
修正適用	ismadm system patch-add
プラグイン適用	ismadm system plugin-add
ホスト名変更	ismadm system modify
障害調査ログ切替え	ismadm system set-debug-flag
SNMP コミュニティー名設定	ismadm snmp

2.3.5.1 ISM-VA 管理機能のコマンド一覧

MIBファイル設定

機能	コマンド
MIBファイル登録	ismadm mib import
MIB ファイル表示	ismadm mib show
MIBファイル削除	ismadm mib delete

2.3.6 仮想化管理ソフトウェア管理機能

仮想化管理ソフトウェアとの連携機能を利用する場合は、ISM に仮想化管理ソフトウェアを登録します。

仮想化管理ソフトウェアの登録

	Administratorグルーフ	その他のグループ
実行できるユーザー	Admin Operator Monitor	Admin Operator Monitor
新しく仮想化管理ソフトウェ	- アを登録する場合の操作方法を示します。	
1. ISM の GUI でグローバ	ルナビゲーションメニューから[各種設定]-	[基本設定]-[仮想化管理ソフトウェア]を選択し
ます。		
2. [アクション]ボタンから	[登録]を選択します。	
3. 登録に必要な情報を入力	します。	
- 仮想化管理ソフトウェン	ア名	
ISM 全体で、一意な名	名称を設定してください。	
- IPアドレス		
仮想化管理ソフトウェ	ェアの[IP アドレス]を設定してください。	
Microsoft Failover	Cluster の場合にはクラスタ仮想 IP を登録	してください。
- タイプ		
登録する仮想化管理ン	ノフトの種類を選択してください。	
Microsoft Failover	Cluster の場合には Windows Server のバー	ジョンも指定してください。
- アカウント情報		
CMS の[アカウント名]	」、[パスワード]を設定してください。	
CMS がドメインに参加	」している場合は、[ドメイン名]も設定して	ください。
- URL		
仮想化管理ソフトウェ	ェアに Web 管理画面にアクセスするための UI	Lを設定してください。
[タイプ]に Web 管理機	機能を提供する仮想化管理ソフトウェアを指 ***	定した場合は、Web 管理画面にアクセスするため
の URL を設定してくた	こさい。	
- ユーサークルーク	し、 プタナン記切し アノゼチレン	
官理りるユーリークル	レーノ泊を迭択してくたさい。	

4. [登録]ボタンをクリックします。仮想化管理ソフトウェアリスト画面に登録した仮想化管理ソフトウェアが表示され ます。

注意

[タイプ]にMicrosoft Failover Clusterを指定した場合は、[ドメイン名]を必ず設定してください。

仮想化管理ソフトウェアからの情報取得

	- Administratorグループ	その他のグループ
実行できるユーザー	Admin Operator Monitor	Admin Operator Monitor
ISM でけ 94 時間国間で登場	した仮相化管理ソフトウェアから以下の情報	が取得されます

ISM では、24 時間周期で登録した仮想化管理ソフトウェアから以下の情報が取得されます。 ・仮想マシン情報

取得された仮想マシン情報は、ISM に登録されているノードの 0S 情報と紐付けて管理されます。取得された各ノードの 仮想マシン情報は、ノード詳細画面の[仮想マシン]タブで確認できます。

最後に仮想化管理ソフトウェアから情報取得が行われた時刻が[最終情報取得日時]に表示されます。一度も情報取得が 行われていない場合は、表示されません。

手動で仮想化管理ソフトウェアから情報取得を行う場合、以下の手順を実行してください。

- 1. ISM の GUI でグローバルナビゲーションから[各種設定]-[基本設定]-[仮想化管理ソフトウェア]を選択します。 2. [CMS 情報取得] ボタンを押し、[実行]します。
- 情報取得が完了すると、イベントログにメッセージ ID「10021503」のログが出力されます。

注意

Microsoft Failover Clusterをご使用の環境で、仮想マシンをHyper-Vマネージャーから削除した場合には、その仮想マシンをフェールオーバクラスタマネージャの役割からも削除してください。

仮想化管理ソフトウェアの編集

Administratorグループ		その他のグループ			
実行できるユーザー	Admin Operator	Monitor	Admin	Operator	Monitor
ISMに登録されている仮想化管理ソフトウェア情報を編集する場合の操作方法を示します。					

- 1. ISM の GUI でグローバルナビゲーションから[各種設定]-[基本設定]-[仮想化管理ソフトウェア]を選択し、
- 表示される[仮想化管理ソフトウェアリスト]画面で、対象の仮想管理ソフトウェアを選択します。
- 2. [アクション]ボタンから[編集]を選択します。
- 3. 情報を編集します。
- 4. [登録]を実行し、情報の内容を反映します。

仮想化管理ソフトウェアの削除

	Administratorグループ	その他のグループ		
実行できるユーザー	Admin Operator Monitor	Admin Operator Monitor		

ISMに登録されている仮想化管理ソフトウェアを削除する場合の操作方法を示します。

1. ISM の GUI でグローバルナビゲーションから[各種設定]-[基本設定]-[仮想化管理ソフトウェア]を選択し、 表示される[仮想化管理ソフトウェアリスト]画面で、対象の仮想管理ソフトウェアを選択します。

- 2. [アクション]ボタンから[削除]を選択します。
- 3. [削除]を実行し、仮想化管理ソフトウェアを削除します。

修正番号:52 2.4.3 ユーザーグループ削除時

ユーザーグループを削除する場合は、事前に以下の操作を完了させてください。

- 適用済みプロファイルは適用を解除してください。
- ユーザーグループに含まれるプロファイル、プロファイルグループ、ポリシー、ポリシーグループは削除してください。
- インポートしたOSメディア、SVS DVD、ファームウェアデータはリポジトリから削除してください。
- ログ収集スケジュールは削除してください。
- 保存したログは削除してください。

修正番号:53 2.4.4 ユーザーグループ名の変更時

ユーザーグループ名を変更する場合は、事前に以下のタスクが実行中で存在していないことを確認して ください。

- ファームウェアデータのインポート操作
- ファームウェアのアップデート操作

修正番号:54 3.1 ISM 導入の流れ

(1) 導入設計

ISM を導入するにあたって事前に準備しておくべき作業は以下のとおりです。

- ディスク資源の見積り
- リポジトリの設定
- ネットワークの<u>構成設計</u>
- ノード名/プロファイル名の設定
- ユーザーの設定

作業内容については、「3.2 ISMの導入設計」を参照してください。

修正番号:55 3.1 ISM 導入の流れ

(6) 仮想ディスクの割当て

ISM-VAのディスク容量を拡張するため、仮想ディスクを割り当てます。

ISM-VAのディスク容量を拡張する作業については、「3.7 仮想ディスクの割当て」を参照してください、ISM-VA 全体と Administrator ユーザーグループに対して仮想ディスクを割当ててください。

修正番号:56 3.1 ISM導入の流れ

注意

ISM-VA 導入後は、すぐに「3.7.2 ユーザーグループに対する仮想ディスク割当て」手順で Administrator グループ用の 仮想ディスク割当てを行ってください。

修正番号:57 3.2.1.2 リポジトリの必要容量の見積り

ポイント

- ユーザーグループとノードグループを関連付けることで、ノードグループごとに分離してISMを運用できます。この 場合、ユーザーグループごとにリポジトリを準備します。ユーザーグループ数の分だけ、リポジトリにServerView Suite DVD以外の必要なディスク容量を見積もる必要があります。
- ServerView Suite DVDは、システム領域に格納されます。使用するServerView Suite DVDの数に応じて、システム領域のLVMボリュームに必要なディスク容量を見積もる必要があります。

修正番号:58 3.2.3 ネットワークの設計

ISMがサーバを管理するには、以下の2種類の管理LANを使用します。

- ●iRMC Management LANに接続するネットワーク
 - 主にサーバの制御やBIOS・iRMCの設定などに使用します。
- ●オンボードLANまたはLANカードに接続するネットワーク

主にOSのインストールやOSをインストールしたあとの接続などに使用します。

修正番号:59 3.2.3 ネットワークの設計

注意

ISM-VAは、デフォルトで「192.168.1.101」の IP アドレスが有効になった状態で 起動します。ネットワーク内のほかの装置との競合に注意してください。

IP アドレスが競合する場合は、以下のような手順で IP アドレスを変更することに より、競合を解消することができます。

- 1. 本番環境以外のハイパーバイザーに ISM-VA をインストール
- 2. ISM-VAの IP アドレスを変更
- 3. 「4.3.1 ISM-VA のバックアップ」手順に従いバックアップ
- 4. バックアップした ISM-VA を、「4.3.2 ISM-VA のリストア」手順に従い 本番環境のハイパーバイザーにリストア

修正番号:60 3.2.4 ノード名の設定

ノードを登録する際に、必要になるノード名およびプロファイル名のルールを決定します。 ノードを登録するときは、1台ごとに固有のノード名を設定します。 ノード名には最大 64 文字の英数字またはハイフン (・)、アンダースコア (_) が使用できます。文字列が設定できます。 ただし以下の文字は使用できません。 スラッシュ(/)、バックスラッシュ()、コロン(:)、アスタリスク(*)、クエスチョンマーク(?) ダブルクォーテーション(*)、山括弧(<)、パイプライン(!)

修正番号:61 3.3.1 Microsoft Windows Server Hyper-V へのインストール

DVDメディアに含まれるzipファイルを使用してインストールします。インストールの途中で指定するインストール先や ネットワークアダプターの選択の詳細は、Hyper-Vのマニュアルを参照してください。

1. DVDメディアに含まれるzipファイルを、Hyper-VホストであるWindowsサーバの一時展開場所に展開します。



2. Hyper-Vマネージャーを起動し、Hyper-VホストであるWindowsサーバを右クリックして[仮想マシンのインポート]を 選択します。

ila.			
ファイル(F) 操作(A)	表示(V)	へルプ(H)	
(* *) 🖄 🔝 🛛	? 💼		
Hyper-V マネージ WIN-HE9BQ	P-	仮想マシン(I)	
	新規(J)	
	仮想マ	シンのインポート(Z)	
	Hyper 仮想ス 仮想 S	-V の設定(S) イッチ マネージャー(T) SAN マネージャー(A)	2
	ディスク	の編集(E)	

「フォルダーの選択」画面で、手順1で展開したディレクトリを選択します。
 選択するディレクトリは、「Snapshots」、「Virtual Hard Disks」、「Virtual Machines」というディレクトリの親ディレクトリです。



3.3.2 VMware vSphere Hypervisor へのインストール

DVDメディアに含まれるovaファイルを使用してインストールします。

1. vSphere Clientを起動し、[ファイル]メニューから[OVFテンプレートのデプロイ]を選択します。

8	~ vSphere Clin	ent	
771)	ル(F) 編集(E) 表示(W) イン	NON) (N) 管理 (A) ブラグイン (P) ヘルナ (H)
	新規 (N)	•	こうろう ちょう
	OVF テンプレートのデブロイ (D).	N	
	エクスポート (E)	15	
1	レポート (R)		alhost.localdomain VMware ESXI, 6.0.0, 2615704
	マップの印刷(P)		30に サマリ 仮想マシン リソース書の当て パフォーマンス
	終了 00		5745017
		10 M 10 M 10 M	ホストは、ESX や ESXiなどの仮想化ソフトウェアを使う 思マシンを実行するコンピュータです。ホストは、仮想マ 使用する CPU およびメモリリソースを提供し、さらに低 ンからストレージにアクセスしたり、ネットワーク提続した ことができるようにします。
		1	仮想マシンを新規作成するか、仮想アブライアンスをデ することによって、ホストに仮想マシンを追加できます。
		18 200	仮想マシンのもっとも簡単な追加方法は、仮想アブライ をデブロイする方法です。仮想アブライアンスは、オペレ ングシステムおよびソフトウェアがすでにインストールで る事前構築済みの仮想マシンです。新規仮想マシンに Windows、Linuxなどのオペレーティングシステムをイ ルする必要があります。

2. ソースの選択画面で、DVDメディアに含まれるovaファイルを選択し、[次へ]をクリックします。

🛃 OVF テンプレートのデブロイ		_ 🗆 ×
ソース ソースの場所を選択します。		
ソース OVF テンプレートの詳細 名前と場所 ストレージ ディスクのフォーマット 終了準備の完了	ファイルまたは URL からのデフロイ D:¥ISM200_vmware.ova URL を入力してインターネットから OVF パッケージをダウンロードしてインストールする か、または使用しているコンとユーダからアクセス可能な場所 (ローカル ハード ドライ ナ、ネットワーク共有、CD/DVD ドライブなど) を指定します。	
	戻る (ご) 次へ (ご)	キャンセル

修正番号:63 3.3.3 KVM へのインストール

DVD メディアに含まれる tar.gz ファイルを使用してインストールします。

1. KVMホストの任意のディレクトリにtar.gzファイルを転送し展開します。

tar xzvf ISMV200si421ISM200_kvm.tar.gz ISMV200si421ISM200_kvm/ ISMV200si421ISM200_kvm/ ISMV200si421ISM200_kvm/ISMV200si421ISM200_kvm.qcow2 ISMV200si421ISM200_kvm/ISMV200si421ISM200.xml

2. 展開されたディレクトリに含まれるファイルをそれぞれ所定の場所にコピーします。

a. qcow2ファイルを/var/lib/libvirt/imagesにコピーします。

cp <u>ISMV200si421ISM200_</u>kvm.qcow2 /var/lib/libvirt/images

- b. xmlファイルを/etc/libvirt/qemuにコピーします。
 - # cp <u>ISMV200si421ISM200</u>.xml /etc/libvirt/qemu
- 3. xmlファイルを指定してISM-VAを登録します。

virsh define /etc/libvirt/qemu/ISMV200si421ISM200.xml

お気に入り	Boxes
アクセサリ	
インターネット	Software Update
オフィス	アプリケーションインストーラー
グラフィックス	
サウンドとビデオ	M SATALIS-
システムツール	システムログ
ドキュメント	低い 仮想マシンマネージャー 、
ユーティリティ	No. of the second se
諸ツール	自動起動するアプリケーション
その他	× 1902
アクティビティ	

5. 仮想マシンマネージャー上でISM-VAを選択し、[開く]をクリックします。

仮想マシンマネージャー			×
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ヘルプ(H)			
名前	*	CPU 使用率	
▼ QEMU/KVM			
ISM200 停止中			
差し替え画像			

6. ISM-VA仮想マシン画面の[表示]メニューから[詳細]を選択します。



7. ISM-VA仮想マシンの詳細画面で[NIC]を選択し、ISM-VAを接続する仮想ネットワークまたはホストデバイスを選択して、[適用]をクリックします。

	IS	M200仮想マシン - ■ ×
ファイル(F) 仮想マシン(M) 表示(V) キ	=ーの送信(Κ)	
		4 ⁽¹⁾
🖳 概要 仮想:	ネットワークインター	仮想ネットワーク 'default': NAT
E Performance ネッ	ットワークソース(N):	仮想ネットワーク 'local': 隔離されたネットワーク、内部とホストルーティングのみ
Processor	デバイスのモデル(1):	ホストデバイス enp6s0f0: macvtap
Memory		ホストデバイス enp6s0f1: macvtap
Boot Options	MAC / FUX.	共有デバイス名を指定
タブレット		
☆☆ キーボード		
🖳 ディスプレイ Spice		
サウンド: ich6		(美) 歴え画像
Serial 1		上し自た画体
Channel gemu-ga		
IIII ビデオ QXI		
📑 コントローラー VirtIO Serial		
ハードウェアを追加(D)		削除(R) キャンセル(C) 適用(A)

3.4.1.1 Microsoft Windows Server Hyper-V で動作する ISM-VA の場合(初回)

1. Hyper-Vマネージャーで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[接続]を選択します。



2. 「仮想マシン接続」画面の[操作]メニューから[起動]を選択し、ISM-VAを起動します。

02	WIN-6KLT5GAI3CT	「上の ISM200	- 仮想マシン接続	_ D X
ファイル(F)	操作(A) メディア(M) 表示(V) へ	レプ(H)	1	
🎕 🕘 🤅	Ctrl+Alt+Del(C)	Ctrl+Alt+End		
	起動(T)	Ctrl+S		
	シャットダウン(D) り	Ctrl+D		
	保存(A)	Ctrl+A		
	一時停止(E)	Ctrl+P		
	ሀቲット(R)	Ctrl+R		
	チェックポイント(P)	Ctrl+N		
	元に戻す(V)	Ctrl+E	ルーたっています	
	旅合サービス セットアップ ディスクの挿	入(I) Ctrl+I		
	仮想インンを起動するに	は、「裸作」メニューのし	起動]をクリックします	
		差し替え画像		
状態: オフ				

3.4.1.2 VMware vSphere Hypervisor で動作する ISM-VA の場合(初回)

1. vSphere Clientで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[コンソールを開く]を選択します。



2. 「コンソール」画面の[仮想マシン]メニューから[電源]-[パワーオン]を選択し、ISM-VAを起動します。



3.4.1.3 KVM で動作する ISM-VA の場合(初回)

1. 仮想マシンマネージャーで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[開く]を選択します。

		仮想マシンマネージャー		. a x
ファイル(F) 編	集(E) 表示(V) ヘルプ(H)		
📔 📃 開く	>			
名前			\mathbf{v}	CPU 使用率
▼ QEMU/KVM				
ISM200 停止中				
	 実行(R) 一時停止(P) シャットダウン(S) クローン 移行 削除(D) 	>		
	開く(<u>o</u>)	•		
		差し替え画像		

2. ISM-VA仮想マシン画面の[仮想マシン]メニューから[実行]を選択し、ISM-VAを起動します。



修正番号:67 3.4.2 ISM 初期設定

コンソールで、日付・時間の設定をします。
 現在の設定の確認方法は以下のとおりです。

ismadm time show Local time: 木 2016-06-09 16:57:40 JST Universal time: 木 2016-06-09 07:57:40 UTC <u>RTC time: 木 2016-06-09 16:57:40</u> Time zone: Asia/Tokyo (JST, +0900) NTP enabled: no NTP synchronized: no RTC in local TZ: no DST active: n/a NTP Servers: 506 Cannot talk to daemon

修正番号:68 3.4.2 ISM 初期設定

5. コンソールで、ドメイン環境の設定をします。

ドメイン環境を使用しない場合には本設定は不要です。

- ドメイン設定情報を追加する。
 # ismadm kerberos add -d <Domain Name> -r <Realm> -n <Controller Name>
 実行例
 # ismadm kerberos add -d sample.local -r SAMPLE.LOCAL -n adsvr.sample.local
- ドメイン設定情報を表示する。

ismadm kerberos show

• ドメイン設定情報を1つ前の状態に戻す

ismadm kerberos restore

2つ以上前の状態に戻すことはできません。

ドメイン設定情報を初期化する

ismadm kerberos init

修正番号:69 3.7.1 ISM-VA 全体に対する仮想ディスク割当て

 ISM-VA停止後、ハイパーバイザーの設定画面で仮想ディスクを作成し、ISM-VA(仮想マシン)に接続します。 Microsoft Windows Server Hyper-Vの場合

IIW NIW	N-B	LHCV5ADENT 上の ISM200 の設定
ISM200	~	4 Þ Q
ISM200		ハードドライブ への仮想ハードディスクを仮想マシンにアタッチする方法は変更できます。このディスクにオペレ マイクジステムがインストールされている場合、アタッチ方法を変更すると、仮想マシンが 起動しなくなる可能性があります。 コントローラー ● 「場所(L): SCSI コントローラー ● 「(使用中) ● メディア 仮想ハードディスクは、関連付けられているファイルを編集することで、最適化、変換、 拡張、結合、再接続、または縮小できます。ファイルへの完全なパスを指定してくださ い。 の 仮想ハードディスク(N): 町担ハードディスク(N): ● 仮想ハードディスク(N): ● 使用したい物理ハードディスクが一覧にない場合は、ディスクがオフラインであ ることを確認してください。物理ハードディスクを管理するには、物理コンピューターのディスクの管理を使用します。これでディスクが切断されます 加速付けられているファイルは削除されません。 第1除(R)
爰エックポイントファイルの場所 C+¥Temp¥bypery C+¥Temp¥bypery	~	OK(O) キャンセル(C) 適用(A)

仮想ディスクは、SCSIコントローラーの配下に作成してください。

修正番号:70 3.7.2 ユーザーグループに対する仮想ディスク割当て

Administratorユーザーグループを例として、仮想ディスク割当ての手順を示します。

1. ISM-VA停止後、ハイパーバイザーの設定画面で仮想ディスクを作成し、ISM-VA(仮想マシン)に接続します。



III WII	N-B	LHCV5ADENT 上の ISM200 の設定
ISM200	~	4 Þ Q
★ ハードウェア 1 ハードウェアの追加 ■ BIOS IDEからブート マロセッサ 2個の仮想プロセッサ □ ブロセッサ 2個の仮想プロセッサ □ IDE コントローラー 0 □ ハードドライブ ism200base_hyperv2.vhdx □ IDE コントローラー 1 ● DVD ドライブ なし □ IDE コントローラー 1 ● DVD ドライブ なし □ IDE コントローラー 1 ● DVD ドライブ なし ○ Wetwork adapter 1 Intel(R) I350 Gigabit Network ● COM 1 なし ○ COM 1 なし ○ COM 2 なし マロッピー ディスク ドライブ なし ★ 管理 I 名前 ISMV200si40 ● 統合サービス - 一部のサービスが提供されています 。 シどてあせいちゅっせ		ヘードドライブ この仮想ハードディスクを仮想マシンにアタッチする方法は変更できます。このディスクにオペル ーマングシステムがインストールされている場合、アタッチ方法を変更すると、仮想マシンが 起動しななる可能性があります。 コントローラー(ア): 場所(L): SCSIコントローラー ♥ 0 (使用中) ♥ メディア 仮想ハードディスクは、関連付けられているファイルを編集することで、最適化、変換、 拡張、結合、再接続、または縮小できます。ファイルへの完全なパスを指定してください。 ● 仮想ハードディスク(V): 町理ハードディスク(V): 便用したい物理ハードディスクが一覧にない場合は、ディスクがオフラインであ ることを確認してください。物理ハードディスクが一覧にない場合は、ディスクがオフラインであ ることを確認してください。物理ハードディスクを管理するには、物理コンピューターのディスクの管理を使用します。 仮想ハードディスクが切り断されます が、関連付けられているファイルは削除されません。 削除(R)
		OK(0) キャンセル(C) 適用(A)

仮想ディスクは、SCSIコントローラーの配下に作成してください。

4.1.1.1 Microsoft Windows Server Hyper-V で動作する ISM-VA の場合(2回目以降)

1. Hyper-Vマネージャーで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[接続]を選択します。



4.1.1.2 VMware vSphere Hypervisor で動作する ISM-VA の場合(2回目以降)

1. vSphere Clientで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[コンソールを開く]を選択します。



2. 「コンソール」画面の[仮想マシン]メニューから[電源]-[パワーオン]を選択し、ISM-VAを起動します。



4.1.1.3 KVM で動作する ISM-VA の場合(2回目以降)

1. 仮想マシンマネージャーで、インストールしたISM-VAを右クリックし、[開く]を選択します。

	4	反想マシンマネージャー		. a ×
ファイル(F) 編	集(E) 表示(V) ヘルプ(H)		
📔 📃 開く	-			
名前			Ŧ	CPU 使用率
V QEMU/KVM				
ISM200 停止中				
	 実行(R) 一時停止(P) シャットダウン(S) クローン 移行 削除(D) 	>		
	開く(<u>o</u>)			
		差し替え画像		

2. 「ISM-VA仮想マシン」画面の[仮想マシン]メニューから[実行]を選択し、ISM-VAを起動します。

実行(R)		
一時停止(P)		
シャットダウン(S)		
クローン		
移行		
削除(D)		
スクリーンショットの取得	(T)	
USB デバイスのリダイレク	ト(R)	
	差し替え画像	仮想マシンが稼働していません

4.6.1 SSL サーバ証明書配置

認証機関などで発行された SSL サーバ証明書を ISM-VA へ設定します。

- FTPでSSLサーバ証明書をISM-VAへ転送します。
 転送先:/Administrator/ftp
 FTPでの転送方法は、「2.1.2 FTPアクセス」を参照してください。
- 2. コンソールからadministratorでISM-VAにログインします。
- 3. SSLサーバ証明書を配置します。

FTP転送した「key」ファイルと「crt」ファイルを指定し、コマンドを実行してください。

ismadm sslcert set -key /Administrator/ftp/server.key -crt /Administrator/ftp/server.crt

4. ISM-VAを再起動します。

ismadm power restart

ポイント

ローカルネットワーク内で使用する独自のホスト名に対応した独自 SSL サーバ 証明書は、openssl コマンドがインストールされた Linux サーバ上で、以下の コマンドで作成することができます。

 $\# \ openssl \ genrsa \ -rand \ /proc/uptime \ 2048 \ > \ server.key$

openss| req -new -key server.key -x509 -sha256 -days 365 -set_serial \$RANDOM -extensions v3_req -out server.crt

- ・証明書のファイル名 (server.key/server.crt) は任意のファイル名を指定。
- ・days オプションは証明書の有効日数を指定
- ・ホスト名は、openssl req コマンド実行後の「Common Name」入力時に指定。

修正番号:75 4.8 ネットワーク設定

ネットワークの設定/表示を行います。

- 1. コンソールからadministratorでISM-VAにログインします。
- 2. ネットワーク設定コマンドを実行します。
 - ネットワークデバイス表示

ismadm network device

○ ネットワーク設定変更

ismadm network modify <LANデバイス名> ipv4.method manual ipv4.addresses <IPアドレス>/<マスクビット> ipv4.gateway <ゲートウェイIPアドレス>

注意

ネットワーク設定変更後は、ISM-VAの再起動が必要です。

実行例)

ismadm network modify eth0 ipv4.method manual ipv4.addresses 192.168.1.101/24 ipv4.gateway 192.168.1.1

○ DNSサーバ追加

ismadm network modify <LANデバイス名> +ipv4.dns <DNSサーバ>

実行例)

ismadm network modify eth0 +ipv4.dns 192.168.1.2

○ DNSサーバ削除

ismadm network modify <LANデバイス名> -ipv4.dns <DNSサーバ>

実行例)

ismadm network modify eth0 -ipv4.dns 192.168.1.2

○ ネットワーク設定表示

ismadm network show <LANデバイス名>

実行例)

ismadm network show eth0
修正番号:76 **4.11 システム情報の表示**

コンソールから ISM-VA の内部システム情報を表示できます。 1. コンソールからadministratorでISM-VAにログインします。

2. システム情報の表示コマンドを実行します。

<pre># ismadm system</pre>	sł	now
ISM Version	:	2.0.0 (S20160901-01)
GUI Port Number	:	25566
Hostname	:	localhost
Log Level	:	small

修正番号:77 4.17 SNMPコミュニティー名設定

SNMP コミュニティー名を変更することができます。

- 1. コンソールからadministratorでISM-VAにログインします。
- 2. SNMPコミュニティー名設定コマンドを実行します。
 - SNMPコミュニティー名の変更

ismadm snmp set -name {Community Name}

SNMPコミュニティー名の表示
 # ismadm snmp show

修正番号:78 4.18 ISM-VA 内部の DHCP サーバ

ISM-VA内部のDHCPサービスを起動することで、ISM-VAをDHCPサーバとして使用できます。 DHCPサーバは、プロファイル管理機能でOSインストールを行う場合に必須であり、その際は、外部のDHCPサーバを使 用することも、以下の手順で設定したISM-VAをDHCPサーバとして使用することも、どちらでも可能です。 (その場合、「4.18.4 DHCPサーバの切り替え」で示されている手順により、どちらのDHCPサーバを使用するかを指定し ます。)

外部のDHCPサーバのみを使用する場合は、以下の設定は不要です。

4.18.1 ISM-VA 内部の DHCP サーバの設定

ISM-VA内部のDHCPサーバの設定をします。 設定後、DHCPサービスを停止、起動することにより設定が反映されます。 DHCPサービスの停止、起動については、「4.18.2 ISM-VA内のDHCPサービスの操作」を参照してください

DHCP サーバの設定には、2つの方法があります。運用に併せていずれかの方法で設定してください。

- ismadm dhcpsrv コマンドのパラメータ指定による設定 ISM-VAの Profile 適用に必要な DHCP サーバの設定を行います。
- conf ファイルによる設定 ISM-VA の Profile 適用で使用する設定に限らず、一般的な DHCP サーバの設定を行います。

(1) ismadm dhcpsrv コマンドのパラメータ指定による設定



```
    コマンドは一行で入力してください。
    以下のパラメータは指定が必須です。指定を省略できません。
    -subnet
    -netmask
    -start
    -end
    -broadcast
```

実行例)

```
# ismadm dhcpsrv set-simple -subnet 192.168.1.0 -netmask 255.255.255.0 -start 192.168.1.150 -end 192.168.1.160 -
broadcast 192.168.1.255 -dns 192.168.1.200 -gw 192.168.1.250
               - New Configuration --
 ddns-update-style none;
 default-lease-time 86400;
max-lease-time 259200;
shared-network LOCAL-NET {
  subnet 192.168.1.0 netmask 255.255.255.0 {
     range 192.168.1.150 192.168.1.160;
     option subnet-mask 255.255.255.0;
     option broadcast-address 192.168.1.255;
     option vendor-class-identifier "PXEClient";
     option domain-name-servers 192.168.1.200;
     option routers 192.168.1.250;
           }
       }
Update DHCP configureation ? (Current settings are discarded)
 [y/n]:
コマンド終了後に、設定した値を確認するメッセージが表示されるので、「y」を入力して設定を確定させてください。
```

(2) conf ファイルによる設定 記述済みの conf ファイルを ISM-VA の ftp 機能でアップロードし、コマンドで取り込みます。 FTPでの転送方法は、「2.1.2 FTPアクセス」を参照してください。

ismadm dhcpsrv set -file <confファイル>

実行例)

ismadm dhcpsrv set -file /Administrator/ftp/dhcpd.conf.new

注意

DCHP サーバの設定変更を行った場合は、DCHP サービスを停止、起動を行ってください。 サービスの停止、起動の方法は、「4.18.2 ISM-VA 内部の DHCP サービスの操作」を参照してください

4.18.2 ISM-VA 内部の DHCP サービスの操作

ISM-VA 内部の DHCP サービスの状態の表示、起動、停止を行います。

DHCP サービスの状態を確認

ismadm service status dhcpd コマンド出力
Active:active(running) : DHCP サービス起動状態
Active:inactive(dead) : DHCP サービス未起動状態
/usr/lib/systemd/system/dhcpd.service; enable; : ISM-VA ブート時起動設定
/usr/lib/systemd/system/dhcpd.service; disabled; : ISM-VA ブート時未起動設定

DHCP サービスの手動起動

ismadm service start dhcpd

注意

- ISM-VA 内部の DHCP サービスを起動する前に、DHCP サーバの設定を行ってください。
- DHCP サーバの設定方法は、「4.18.1 ISM-VA 内部の DHCP サーバの設定」を参照してください。
- DHCP サーバが起動状態設定で「(dead)」状態になっている場合は、「4.18.3 ISM-VA 内部の DHCP サーバ情報の確認・DHCP サーバメッセージ表示」でエラーが出ていないかどうか確認してください。

• DHCP サービスの手動停止

ismadm service stop dhcpd

- ISM-VA 起動時に DHCP サービスを起動するように設定
 # ismadm service enable dhcpd
- ISM-VA 起動時に DHCP サービスを起動しないように設定
 # ismadm service disable dhcpd

4.18.3 ISM-VA 内部の DHCP サーバ情報の確認

ISM-VA 内部の DHCP サーバの情報を表示します。 現在設定されている DHCP サーバの内容の表示、DHCP サーバのメッセージの表示、現在の設定内容 (conf ファイル)を ftp アクセス可能な場所へエクスポート、サンプル conf ファイルを ftp アクセス可能な場所へエクスポートすること ができます。

● 現在設定されている DHCP サーバの内容を表示

ismadm dhcpsrv show-conf

• DHCP サーバのメッセージ表示

ismadm dhcpsrv show-msg [-line]
 オプション無しで実行した場合、20 行表示します。
 オプション[-line] を指定した場合、表示行数を指定できます。

実行例)

ismadm dhcpsrv show-msg -line 50

● 現在の設定内容(conf ファイル)を ftp アクセス可能な場所へエクスポート

ismadm dhcpsrv export-conf -dir /Administrator/ftp

設定内容(conf ファイル)のサンプルを ftp アクセス可能な場所へエクスポート

ismadm dhcpsrv export-sample -dir /Administrator/ftp

4.18.4 DHCP サーバの切り替え

Profile 機能で DHCP サーバを使用する場合に、ISM-VA 内部の DHCP サーバを使用するか、外部の DHCP サーバを使用 するかを切り替えることができます。

現在の設定の表示

# ismadm dhcpsrv show-mode		
: Profile 機能は ISM 内部の DHCP サーバを使用します。		
: Profile 機能は外部の DHCP サーバを使用します。		
-1	-mode : Profile 機能は ISM 内部の DHCP サーバを使用します。 : Profile 機能は外部の DHCP サーバを使用します。	

設定の切り替え

・ISM-VA 内部の DHCP サーバを使用して Profile 適用を行うように設定

ismadm dhcpsrv set-mode local

・外部の DHCP サーバを使用して Profile 適用を行うように設定

```
# ismadm dhcpsrv set-mode remote
```

修正番号:79 4.19 MIB ファイル設定

任意のトラップ受信を可能にする MIB ファイルを、ISM-VA 内に取り込むことができます。

4.19.1 MIB ファイル登録

- 1.FTPでMIBファイルを転送します。
 - 転送先:/Administrator/ftp/mibs
- FTPでの転送方法は、「2.1.2 FTPアクセス」を参照してください。
- 2. コンソールからadministratorでISM-VAにログインします。
- 3. MIBファイル登録コマンドを実行します。

ismadm mib import

4.19.2 MIB ファイル表示

ISM-VA に登録された MIB ファイルを表示できます。

ismadm mib show

4.19.3 MIB ファイル削除

ISM-VA に登録された MIB ファイルを削除できます。

ismadm mib delete -file <MIBファイル名>

付録A ISM-VAのアンインストール

Microsoft Windows Server Hyper-Vからのアンインストール

- ISM-VAを停止します。
 詳しくは、「4.1.2 ISM-VAの終了」を参照してください。
- 2. Hyper-Vマネージャーを起動し、インストールしたISM-VAを右クリックして[設定]を選択します。
- ISM-VAに割り当てられている仮想ハードディスクの格納場所とファイル名が表示されるので、メモしてください。 3. Hyper-Vマネージャー上で、インストールしたISM-VAを右クリックして[削除]を選択します。



4. 手順2で記録した仮想ハードディスクを、エクスプローラーで削除します。

付録A ISM-VAのアンインストール

VMware vSphere Hypervisorからのアンインストール

1. ISM-VAを停止します。

詳しくは、「<u>4.1.2 ISM-VAの終了</u>」を参照してください。

2. vSphere Clientを起動し、インストールしたISM-VAを右クリックして[ディスクから削除]を選択します。



付録A ISM-VAのアンインストール

KVMからのアンインストール

- ISM-VAを停止します。
 詳しくは、「<u>4.1.2 ISM-VAの終了</u>」を参照してください。
- 2. 仮想マシンマネージャーを起動し、インストールしたISM-VAを右クリックして[削除]を選択します。

	仮想マシンマネージャー	- ¤ ×
ファイル(F) 編集(E) 表示	(V) ヘルプ(H)	
📔 💻 開< 🕞 👓	•	
名前		▼ CPU 使用率
▼ QEMU/KVM		
ISM200 停止中	≢行(p)	
	シャットタワン(S) ▶	
	クローン	
	移行	
	削除(<u>D</u>) ▶	
	開<(<u>0</u>)	
	差し替え画像	

付録B トラブルシューティング

現象: ismadmコマンドを火曜 午前2:20頃に実行するとエラーとなる。

・対象コマンド ismadm service disable ismadm service enable ismadm service restart ismadm service show ismadm service start ismadm service status ismadm service stop ismadm time add-ntpserver ismadm time del-ntpserver

 表示されるエラーメッセージ 以下のいずれかのエラーが表示される。
 Failed to list unit files: Message did not receive a reply (timeout by message bus)
 Failed to list unit files: Connection reset by peer

原因・対処

火曜 午前2:20にISM-VAのカーネルコマンドが再起動されます。カーネルコマンドの再起動中に対象のismadm コマンドを実行するとエラーとなる場合があります。 エラーが発生した場合は、ismadmコマンドを再実行してください。

現象:以下の機能において、ファイルのインポート操作の実施時に、ファイル選択画面で「サーバとの通信 に失敗しました。」のエラーが表示される。

- [各種設定]-[プロファイル]-[アクション]-[インポート]-[選択]ボタン
- [各種設定]-[リポジトリ]-[ファームウェア]-[リポジトリ<u>インポートデータリスト</u>]-[アクション]-[DVDインポー ト]-[選択]ボタン
- [各種設定]-[リポジトリ]-[ファームウェア]-[ファームウェア<u>インポートデータリスト</u>]-[アクション]-[ファーム ウェアインポート]-[選択]ボタン
- [各種設定]-[リポジトリ]-[OS / SVS]-[アクション]-[DVDインポート]-[選択]ボタン

原因·対処

- 使用者が所属しているユーザーグループのFTPフォルダー配下のファイルについて、ファイル名にUTF-8でない文字コ ードが含まれていないか確認してください。
- ISMとクライアントの通信状態を確認してください。

ファームウェア管理機能

現象: ETERNUS DX/AFモデルのファームウェアアップデートに失敗する。

原因・対処

「Update モード実施可能」な条件を満たしていない可能性があります。

ファームウェアデータと共に提供されている、留意事項のpdfファイルの「ファームウェアアップデート実行可否版数マトリクス」を参照して、ご利用の環境が「Update モード実施可能」な条件を満たしているか確認してください。

プロファイル管理機能

現象:プロファイル機能でOSインストールがエラーになる。

原因・対処

- インストール対象の0Sインストールメディアがインポートされていません。インストールする0Sのインストールメディアをインポートしてからプロファイル適用を実行してください。
- インストール対象ノードとOS種別に対応したServerView Suite DVDがインポートされていません。インストール対象 ノードとOS種別をサポートしたServerView Suite DVDをインポートしてからプロファイル適用を実行してください。 プロファイル内で使用するServerView Suite DVD版数の指定がない場合は、インポートされた最新のDVDが使用され ます。旧機種、旧OSの場合には、使用するDVD版数をプロファイル内で設定してください。
- PXE bootを動作させるための環境設定に問題がある可能性があります。以下を確認してください。
 - DHCPサーバが適切なIPアドレスをリースできるか
 - ノードのBIOS設定でPXE機能が無効になっていないか
 - ノードのオンボードLANまたはLANカードとISM-VAが接続されているか、など

ネットワーク管理機能

現象:ネットワークマップに仮想スイッチ、仮想マシンの接続関係が表示されない、または表示内容に誤り がある。

原因・対処

仮想スイッチ、仮想マシンの接続関係を表示するためには管理対象ノードを管理している仮想化管理ソフトウェアをISM に登録し、管理対象ノードの0S情報を登録しておく必要があります。仮想化管理ソフトウェア情報が正しく登録されているか、管理対象ノードの0S情報が正しく登録されているかを確認してください。

ログ管理機能

現象:ノードのログが収集されない、ノードのログの収集に失敗する。

原因・対処

- ノードを新規に登録した時点では、ログ収集は行われない状態になっています。[ログ設定]でログ収集スケジュール を設定してください。
- ●「ノード詳細」画面の[ログ設定]タブ内で、ステータスが「対象外」となっていて、ログ収集用のアクションボタン が表示されない場合は、ノードがログ収集対象外の機器か、ノード登録直後で機器情報が未取得の状態です。ログ収 集対象ノードの場合は、数分待ったあとに画面を更新してください。
- ログ収集時に指定するログ種類の[対象]を確認してください。スケジュール設定の場合は、[スケジュール実行有効化]にチェックが付いていることを確認してください。
- GUI画面から[ログ収集実行]を実行するとログが収集できるが、スケジュール設定してもログが収集できていない場合は、スケジュール実行のタイミングでノードの電源がオフになっているなどが考えられます。スケジュールの内容を確認してください。
- ノードログのファイルサイズが10GBを超えると、ログの収集は実行されません。[イベント/タスク]-[イベント]を確認し、ログ収集のタイミングで「保管ログ保存領域の設定容量を超過しました。」または「ノードログ保存領域の設定容量を超過しました。」または「ノードログ保存領域の設定容量を超過しました。」が記録されている場合は、ログファイルの総容量がユーザーグループ設定に設定された上限(サイズ制限)設定値を超えると、新たなログは保管されません。[イベント/タスク]-[イベント]を確認し、ログ収集のタイミングで「保管ログ保存領域の設定容量を超過しました。」、「ノードログ(ダウンロード用データ)保存領域の設定容量を超過しました。」または「ノードログ(ログ検索用データ)保存領域の設定容量を超過しました。」が記録されている場合は、収集済みのログを一部削除してファイル容量を減らしてください。

現象:ノードのログ収集の設定ができない。

原因・対処

ノードのステータスが「対象外」となっている場合は、ノードがログ収集のサポート対象であるか確認してください。サ ポート対象で「対象外」となっている場合は、ISM がノード情報を取得できていないことがあるので、ノードとのネッ トワーク接続やノードプロパティの設定を確認したあと、[ノード情報取得]を実行してください。

現象:ノードのログ収集で、「オペレーティングシステム」、「ServerView Suite」が指定できない。

原因・対処

- 対象ノードのOS情報が登録されていないか、ISMがノードのOS情報を未取得の場合は指定できません。OS情報を登録 後に[ノード情報取得]を実行してください。
- OSの種類によっては、「ServerView Suite」は取得対象外のため指定できません。

付録C プロファイル設定項目

1.1 PRIMERGYサーバ用プロファイルのBIOS/iRMC設定項目

プロファイル中のBIOS/iRMCタブで設定可能な項目を記載します。サーバ種類に応じて一部設定できない項目や設定内容 が異なる項目があります。対象サーバがサポートしている範囲で設定を行ってください。 プロファイル内の設定項目は、個別に有効/無効を選択できます。無効にした場合、プロファイルを適用しても、無効に 設定した項目は変更されません。

各項目の詳細は、対象サーバのマニュアルを参照してください。

BIOSタブ

項目名	説明	設定値	
CPU Configuration			
Execute Disable Bit (Enabled / Disabled)	CPUのExecute Disable Bit動作を指 定します。本機能は、HWマニュアルに よっては、「XD (eXecute Disable) ビ ット」、または「NX (No eXecute) ビ ット」として説明されている場合があ ります。	Enabled=機能を使用可能にする Disabled=機能を無効にする	
Hyper-Threading (Enabled / Disabled)	 CPUのHyper Threading Technology動 作を指定します。 本機能を持たないCPUを搭載している 場合、本設定は無視されます。 	Enabled=機能を使用可能にする Disabled=機能を無効にする	
Intel Virtualization Technology (Enabled / Disabled)	CPUの仮想化支援機能の動作を指定します。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする	
Intel (R) VT-d (Enabled / Disabled)	CPU の Virtualization Technology for Directed I/O機能動作を指定し ます。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする	
Power Technology (Energy Efficient / Customize / Disabled)	CPUの電源管理動作を設定します。	Energy Efficient=省電力に最適 化された動作をする Custom=追加設定項目により詳細 動作を設定する Disabled=電源管理機能を無効に する	
Enhanced SpeedStep (Enabled / Disabled)	Power TechnologyがCustomの場合の み設定可能な項目です。 CPU の EIST (Enhanced Intel SpeedStep Technology)動作を指定し ます。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする	
Turbo Mode (Enabled / Disabled)	Enhanced SpeedStepがEnabledの場合 のみ設定可能な項目です。 CPUのTurbo Boost Technology動作を 指定します。 本機能を持たないCPUを搭載している 場合、本設定にかかわらず無効 (Disabled)と設定されます。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする	

項目名	説明	設定値
Memory Configuration		
DDR Performance (Low-Voltage optimized / Energy optimized / Performance optimize)	メモリモジュールは異なる速度(周波 数)で動作します。高速になるほどパ フォーマンスが向上し、低速になるほ ど省電力になります。使用可能なメモ リ速度は、取り付けられているメモリ モジュールの構成に応じて異なりま す。	Low-Voltage optimized=低電圧 で可能な最も高速な設定 Energy optimized=省電力で可能 な最も低速な設定 Performance optimized=最高の パフォーマンスを得るために可能 な最も高速な設定
Numa (Enabled / Disabled)	NUMA(Non-Uniform Memory Access)機 能の利用有無を指定します。 マルチプロセッサ構成ではない場合、 本設定は無視されます。	Enabled=NUMA機能を有効にする Disabled=NUMA機能を無効にする
Onboard Device Configuration		
Onboard SAS/SATA (SCU) (Enabled / Disabled)	オンボードSAS/SATAストレージコン トローラーユニット (SCU)の動作を 指定します。	Enabled=SCUを有効にする Disabled=SCUを無効にする
SAS/SATA OpROM (Enabled / Disabled)	Onboard SAS/SATA (SCU) がEnabledの 場合のみ設定可能な項目です。 SAS/SATA コントローラーのOption	Enabled=Option ROMを有効にす る Disabled=Option ROMを無効にす
SAS/SATA Driver	ROM動作を指定します。 SAS/SATA OpROMがEnabledの場合のみ 設定可能な頂日です	る LSI MegaRAID = Embedded MagaRAID田Option POWを使用する
(LSI MegaRAID / Intel RSTe)	ROMの種類を指定します。	MegakkiDHopfion Romを使用する Intel RSTe=Intel RSTe用Option ROMを使用する
Option ROM Configuration		
Launch Slot X OpROM (Enabled / Disabled)	各PCIスロットに搭載されたオプショ ンカードの拡張ROM実行を指定しま す。 プロファイルでは多くのスロットに 対して指定できますが、実機上に存在 しないスロットに対しては設定しな いでください。	Enabled=拡張ROMを実行する Disabled=拡張ROMを実行しない
CSM Configuration		
Launch CSM (Enabled / Disabled)	CSM (Compatibility Support Module) を実行するかどうかを指定します。 CSM がロードされている場合のみ、レ ガシーオペレーティングシステムを 起動できます。	Enabled=CSMを実行する Disabled=CSMを実行しない
Boot Option Filter (UEFI and Legacy / UEFI only / Legacy only)	どちらのドライブからブートできる かを指定します。	UEFI and Legacy=UEFI OS ドラ イブおよび Legacy OS ドライブ からブート可能 UEFI only=UEFI OS ドライブか らのみブート可能 Legacy only=Legacy OS ドライ ブからのみブート可能
Launch Pxe OpRomPolicy (UEFI only / Legacy only / Do not launch)	起動する PXE Option ROM を指定し ます。 PXE ブートの場合は、使用可能な通常 の (Legacy) PXE ブートおよび UEFI PXE ブートがあります。	UEFI only=UEFI Option ROM のみ 起動する Legacy only=Legacy Option ROM のみ起動する Do not launch=Option ROM を起 動しない

項目名	説明	設定値
Launch Storage OpRomPolicy (UEFI only / Legacy only /	"起動する Storage Option ROM を指 定します。	UEFI only=UEFI Storage Option ROM のみ起動する
Do not launch)		Legacy only=Legacy Storage Option ROM のみ起動する
		Do not launch=Storage Option ROM を起動しない
Other PCI Device Rom Priority (UEFI OpROM / Legacy OpROM)	ネットワーク、マスストレージデバイ ス、ビデオ以外の、デバイスで起動す	UEFI OpROM=UEFI Option ROM の み起動する
	る Option ROM を指定します。	Legacy OpROM = Legacy Option ROM のみ起動する
Network Stack		
Network Stack (Enabled / Disabled)	UEFI Network Stack を UEFI でネッ トワークアクセスに使用できるかど うかを設定します	Disabled=UEFI ネットワークス タックの使用を許可しない
		Enabled=UEFI ネットワークスタ ックの使用を許可する
IPv4 PXE Support (Enabled / Disabled)	Ipv4 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定	Disabled=Ipv4 による PXE UEFI Boot の使用を許可しない
	します。	Enabled=Ipv4 による PXE UEFI Boot の使用を許可する
IPv6 PXE Support (Enabled / Disabled)	Ipv6 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定 します。	Disabled=Ipv6 による PXE UEFI Boot の使用を許可しない Enabled=Ipv6 による PXE UEFI
		D001 の使用を計り9 つ

iRMCタブ

項目名	説明	設定値
iRMC GUI		
デフォルト言語	言語の初期設定を行います。	英語=デフォルト言語を英語にす
(英語 / ドイツ語 / 日本語)	次回 iRMC Web インターフェースを呼び出す際に有効になります。	3
		ドイツ語=デフォルト言語をドイ ツ語にする
		日本語=デフォルト言語を日本語 にする
電源制御		
POSTエラー時の動作 (起動継続 / 起動停止)	サーバ起動時にエラーが発生した場合 の対応動作を設定します。	起動継続=エラーが発生しても、起 動処理を続ける
		起動停止=エラーが発生すると、キ 一入力があるまで起動を停止する
電源復旧時動作設定 (電源断前の状態に戻す / 電 源投入しない / 電源投入する)	AC電源入力が切断されたあと、電源復 旧した際の電源動作を設定します。	電源断前の状態に戻す=電源切断 発生時の状態を保持する(切断時に サーバが電源ON中だった場合は電 源投入する。電源OFF中だった場合 は電源投入しない) 電源投入しない=常に電源OFFにな る 電源投入する=常に電源ONになる
電力制御	サーバの省電力動作や静音動作に関す	OSによるコントロール=OSの制御
(OSによるコントロール / 省	る設定を行います。	に従う

項目名	説明	設定値
電力動作)	注意	省電力動作=消費電力を抑えるこ とを優先した動作となる (スケジュール)=プロファイル管
	BIOS設定で、Enhanced SpeedStepを無 効に設定した場合、本制御も無効とな ります。	理では設定できない (電力制限)=プロファイル管理で は設定できない
ファンテスト		
ファン確認時刻	ファンテストを実行する場合に有効に なります。	ファンテストの開始時刻を入力す る
ファンテスト無効化	定期的なファンの診断を行うかどうか を設定します	 (チェックあり) =ファンテストを 行わない (チェックな1) = 毎日指定1 た時
		刻にテストを行う
ソフトワェアワオッチドック		
ソフトウェアウォッチドッグ	ソフトウェアウォッチドッグにて、0S 動作中に定期的な通信チェックをする かどうかを指定します。	(チェックあり)=通信監視を行う (チェックなし)=通信監視を行わ ない
	注意	
	設定はサーバ再起動後に有効となりま す。	
<i>動化</i> :	「済信が行きない損なの動化な化会」ナ	デルガムンシャンマナン砲中ナス
到1日	通信が行えない場合の動作を指定します。	ンルタリンから以下を選択する 継続稼働=特に何も行いません リセット=サーバの再起動を行う
	注意	パワーサイクル=一度サーバを電源OFFしたあと、電源ONを行う
	設定はサーバ再起動後に有効となりま す。	
タイムアウト時間	通信できないと判断する時間を指定し ます。	1~100分までの数値を指定する
	注意	
	設定はサーバ再起動後に有効となりま す。	
Bootウォッチドッグ	1	1
Bootウォッチドッグ	Bootウォッチドッグにて、POST終了後	(チェックあり)=時間監視を行う

	項目名	説明	設定値
		から0S起動までの時間を監視するかど うかを指定します。 注意 設定はサーバ再起動後に有効となりま す。	(チェックなし) =時間監視を行わ ない
	武 // -	化ウトを吐用力についたおもしまい、日本	
	則作	指定した時間内にUSが起動しない場合 の動作を指定します。 注意	ンルタリンから以下を選択する 継続稼働=特に何も行いません リセット=サーバの再起動を行い
		設定はサーバ再起動後に有効となりま す。	パワーサイクル=一度サーバを電 源OFFしたあと、電源ONを行います
	タイムアウト時間	OSが起動しないと判断する時間を指定 します。	1~100分までの数値を指定します
		注意	
		設定はサーバ再起動後に有効となりま す。	
時	刻		
	タイムモード (システムRTC / NTPサーバ)	iRMC の時刻設定を管理対象サーバか ら取得する、もしくはNTPサーバから取 得するかを指定します。	System RTC=管理対象サーバのシ ステムクロックからiRMCの時刻を 取得する NTP Server=ネットワークタイム プロトコル(NTP)を使用して独自の 時刻を参照時刻ソースとして動作 する NTP サーバとiRMCの時刻を同 期する
	RTCモード (ローカルタイム / UTC)	iRMC の時刻を UTC (協定世界時) 形式 で表示する、もしくはローカルタイム 形式で表示するかを選択できます。	ローカルタイム=iRMCの時刻をロ ーカルタイム形式で表示する UTC=iRMC の時刻を UTC (協定世界 時)形式で表示する
	NTPサーバ 0	プライマリ NTP サーバの IP アドレ スまたは DNS 名を指定します。	IPアドレスまたはDNS文字列を入力 する
	NTPサーバ 1	セカンダリ NTP サーバの IP アドレ スまたは DNS 名を指定します。	IPアドレスまたはDNS文字列を入力 する
	タイムゾーン	PRIMERGY サーバのある場所に対応す るタイムゾーンを設定できます。	プルダウンから選択する
ホ	《一ト番号とネットワークサービス	設定	

	項目名	説明	設定値
	Telnet 有効	Telnet接続を有効にするかを指定します。	 (チェックあり)=Telnet接続を有効にする (チェックなし)=Telnet接続を無効にする
	Telnet ポート(初期値: 3172)	iRMC の Telnet ポート番号を指定し ます。	ポート番号を入力する。 初期値は3172
	SSH 有効	ssh接続を有効にするかを指定します。	 (チェックあり) = ssh接続を有効 にする (チェックなし) = ssh接続を無効
	SSH ポート(初期値: 22)	ssh の Telnet ポート番号を指定しま す.	にする ポート番号を入力する。
SI	MD — 妳設会	7.0	初期值は22
	SNMP 有効	SNMPを有効にするかを指定します。	有効=SNMPを有効にする 無効=SNMPを無効にする
		<u> </u>	
		iRMCのWebUI画面にない設定項目は 設定できません。ファーム版数により、 一部の設定項目はiRMCのWebUI画面 に設定項目があっても設定できませ ん。プロファイルの適用に失敗する場 合は、設定項目を無効化してください。	
	SNMPポート(初期値: 161)	SNMP サービスが待機しているポート を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は UDP 161
		注意	
		iRMCのWebUI画面にない設定項目は 設定できません。ファーム版数により、 一部の設定項目はiRMCのWebUI画面 に設定項目があっても設定できませ ん。プロファイルの適用に失敗する場 合は、設定項目を無効化してください。	
	<u> </u>		
	SNMPサービスフロトコル (全て(SNMPv1/v2c/v3) / SNMPv3のみ)	SNMPサービスフロトコルを指定しま す。 注意	全て (SNMPv1/v2c/v3) =全プロトコ ルサポート (SNMPv1/v2c/v3) SNMPv3のみ=SNMPv3のみサポート
		iRMCのWebUI画面にない設定項目は 設定できません。ファーム版数により、 一部の設定項目はiRMCのWebUI画面 に設定項目があっても設定できませ ん。プロファイルの適用に失敗する場 合は、設定項目を無効化してください。	

	項目名	説明	設定値
	SNMPv1/v2cコミュニティー名	SNMP v1/v2c の場合のコミュニティー 文字列を指定します。	
		注意	
		iRMCのWebUI画面にない設定項目は 設定できません。ファーム版数により、 一部の設定項目はiRMCのWebUI画面 に設定項目があっても設定できませ ん。プロファイルの適用に失敗する場 合は、設定項目を無効化してください。	
SI	MPv3 ユーザー設定		
	SNMPv3 有効 (有効 / 無効)	ユーザーに対して SNMPv3 サポート を有効にするか指定します。	有効=SNMPv3サポートを有効にす る 無効=SNMPv3サポートを無効にす
		注意	3
		SNMPv3ユーザーを作成/変更するに は、ネットワーク設定 -> SNMPにて SNMPを有効にする必要があります。	
		SNMPv3を使用するには最低8文字の パスワードを設定する必要がありま す!	
		iRMCのWebUI画面にない設定項目は 設定できません。ファーム版数により、 一部の設定項目はiRMCのWebUI画面 に設定項目があっても設定できませ ん。プロファイルの適用に失敗する場 合は、設定項目を無効化してください。	
	SNMPv3 アクセス権	ユーザーのアクセス権限を指定しま す。 注意	常に読み取りのみとなる
		SNMPv3ユーザーを作成/変更するに は、ネットワーク設定 -> SNMPにて SNMPを有効にする必要があります。	
		SNMPv3を使用するには最低8文字の パスワードを設定する必要がありま す!	

項目名	説明	設定値
	iRMCのWebUI画面にない設定項目は 設定できません。ファーム版数により、 一部の設定項目はiRMCのWebUI画面 に設定項目があっても設定できませ ん。プロファイルの適用に失敗する場 合は、設定項目を無効化してください。	
認証 (SHA / MD5 / 無効)	 SNMPv3 が認証に使用する認証プロトコルを選択します。 注意 SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、ネットワーク設定 -> SNMPにてSNMPを有効にする必要があります。 SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります! 	SHA=SHAを使用する MD5=MD5を使用する 無効=認証を無効にする
	iRMCのWebUI画面にない設定項目は 設定できません。ファーム版数により、 一部の設定項目はiRMCのWebUI画面 に設定項目があっても設定できませ ん。プロファイルの適用に失敗する場 合は、設定項目を無効化してください。	
暗号化 (DES / AES / 無効)	 SNMPv3 が SNMPv3 トラフィックの暗号化に使用する暗号化プロトコルを指定します。 注意 SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、ネットワーク設定 -> SNMPにてSNMPを有効にする必要があります。 SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります! iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、認定項目があっても設定できます。 	DES=DESを使用する AES=AESを使用する 無効=暗号化を無効にする

	項目名	説明	設定値
SN	MPトラップ送信先		
	SNMPトラップコミュニティー	SNMPトラップコミュニティーを指定し ます。	SNMPトラップコミュニティー文字 列を入力する
	SNMPユーザー	SNMPv3 トラップ送信先に定義済みの SNMPv3 ユーザーを指定します。	SNMPユーザー文字列を入力する
		注意	
		iRMCのWebUI画面にない設定項目は 設定できません。ファーム版数により、 一部の設定項目はiRMCのWebUI画面 に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場 合は、設定項目を無効化してください。	
	送信先SNMPサーバ 1-7	「トラップ送信先」として設定するコ ミュニティーに属するサーバのDNS 名 または IP アドレスを指定します。	SNMPサーバのIPアドレス、または DNS文字列を入力する
	プロトコル	トラップの受信に使用する SNMP プロ トコルバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する SNMPv1、SNMPv2c、SNMPv3
		注意	
		iRMCのWebUI画面にない設定項目は 設定できません。ファーム版数により、 一部の設定項目はiRMCのWebUI画面 に設定項目があっても設定できませ ん。プロファイルの適用に失敗する場 合は、設定項目を無効化してください。	

1.2 PRIMERGYサーバ用プロファイルのOS設定項目

プロファイル中の0S/0S個別情報タブで設定可能な項目を記載します。省略可の記載がある項目はプロファイル上で設定 をしなくても0Sのインストールは可能です。省略した場合は設定されないか、0Sのデフォルトの設定が適用されます。

1.2.1 Windows Server 2008 R2 SP1/Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2用/ Windows Server 2016用プロファイル

0Sタブ

項目名	説明	設定値
インストール指定		
インストールのタイプ	OSをコアインストール、フルインストー ルのどちらでインストールするかを指 定します。	画面から選択する。
インストールメディア	インストールに使用するメディアの種 類を選択します。	プルダウンから選択する。 Microsoft社メディアを選択した場 合は、さらにプロダクトキーの入力 が必要。
ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版 数を指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール=リポジト リに登録されている中で、最もバー ジョンの新しいServerView Suiteを 使用する 版数を指定する=指定した版数の ServerView Suiteを使用する
管理LAN ネットワークポート設定		
ネットワークポート指定	管理LANに使用するネットワークのポー トを指定します。	(チェックあり)=管理LANのネット ワークポートを指定する
指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方 法を選択します。(*10)	プルダウンから選択する。
ネットワークカード	指定方法にて、「ポート番号」を指定し た場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を 選択します。	画面から選択する。 PCIカードを選択した場合には、PCI スロット番号を入力する。
ポート番号	指定方法にて、「ポート番号」を指定し た場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
MACアドレス	指定方法にて、「MACアドレス」を指定し た場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレ スを入力する。
RAIDとディスクの構成		
アレイコントローラを使用する	サーバ内蔵のアレイコントローラをOS インストール先として使用する場合に 選択します。	(選択時)=アレイコントローラを 使用する(*8)
既存アレイ構成を使用する	すでにアレイコントローラ上に作成済 みのボリュームを使用します。	(選択時)=既存のアレイ構成を使 用する
アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュ ームを作成して使用します。	 (選択時)=アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラの種類、 RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数をプルダウンから選択する。
アレイコントローラを使用しな い	アレイコントローラ以外のドライブを OSインストール先として使用する場合 に選択します。	 (選択時) =アレイコントローラ以 外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を 画面から選択する。
ボリューム1		
ボリュームラベル	ボリューム名を指定します。	ボリューム名文字列を入力する。 (*6)

項目名	説明	設定値
ファイルシステム	ファイルシステムの種類を選択します。	常にNTFSとなる。
パーティションサイズ(自動/ 指定)	パーティションのサイズを指定します。	自動=自動的に適切なサイズでパー ティションを作成する
		指定=入力したサイズでパーティシ ョンを作成する
クイックフォーマット	パーティションのフォーマット時にク	する=クイックフォーマットを行う
	イックフォーマットを利用するかどう かを指定します。	しない=通常のフォーマットを行う (作業時間は長くなる)
利用形態	パーティションの用途を指定します。	常にBoot、OSとなる。
タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
地域と言語	地域と言語を指定します。	プルダウンから選択する。
キーボード	キーボードの言語や種類を指定します。	プルダウンから選択する。
システム設定		
	OSインストール直後の画面解像度を指	プルダウンから選択する。(*1)
	定します。	例: 600×480、800×600、1024×768、 1280×1024
リフレッシュレート [Hz]	OSインストール直後のディスプレイの リフレッシュレートを指定します。	プルダウンから選択する。(*1)
画面の色数 [bit]	0Sインストール直後の画面の表示色数 をビット数で指定します。	プルダウンから選択する。(*1)
役割と機能の追加		
SNMPサービスのインストール	SNMPサービスをインストールするかど うかを指定します。	(チェックあり)=SNMPサービスを インストールする
SNMPトラップ設定	SNMPトラップ送信時のコミュニティー 名とトラップ送信先を指定します。	追加ボタンをクリックして任意の数 の設定を行う。
		【省略可】
SNMPセキュリティサービス	受け付けるSNMPコミュニティー名とそ の権利を指定します。	追加ボタンをクリックして任意の数 の設定を行う。
		【省略可】
認証トラップの送信	未知のホストまたはコミュニティーか らのSNMP要求があった場合に認証トラ	(チェックあり)=認証トラップを 送信する
	ップを送信するかどうかを指定する。	(チェックなし)=認証トラップを 送信しない
SNMPパケットの受付	LocalhostからのSNMPパケットを受け付	(デフォルトのホストからSNMPパケ
(デフォルトのホストから SNMPパケットを受け付ける (LocalHost)/ これらのホス	けるかどうかを指定します。	ットを受け付ける (LocalHost)) = LocalhostからのSNMPパケットを受 付ける
トからSNMPパケットを受け 付ける)		(これらのホストからSNMPパケット を受け付ける)=次に指定したホス
		ト名からのSNMPパケットを受付け る。加えて、ホスト名を記載する
SNMP設定エージェント	連絡先と物理的な位置を入力する。	日本語を含む文字列が使用可能。 【省略可】
サービス	SNMPホストに関する情報を5つのオプションから指定します。	任意のサービスをチェックする。
リモートデスクトップ	リモートデスクトップの利用可否を指	(チェックあり) =リモートデスク
	たしより。	トツノを有効にする (チェックなし)=リモートデスク

項目名		項目名	説明	設定値
				トップを無効にする
	リトみ	モートアシスタンス(インス ールのタイプがフルの場合の 、)	リモートアシスタンスの利用可否を指 定します。	許可する範囲を画面で指定する。 必要に応じて招待の有効時間も指定 する。
	フ	アイアーウォール設定	対象サーバをSCVMへ登録する際に必要 となるファイアーウォールの例外を作 成します。 以下のアプリケーションからのアクセ スが有効になります。	(チェックあり)=ファイアーウォ ール例外を作成する (チェックなし)=ファイアーウォ ール例外を作成しない
			・Windows Management Instrumentation(WMI) ・ファイルとプリンターの土有	
	ìÉ	加アプリケーション		
	~	Java Runtime Environment	Java Runtime Environmentをインスト ールするかどうかを指定します。	(チェックあり)=アプリケーショ ンをインストールする(*9)
			ServerView RAID Managerをインストー ルする場合には必ず指定してください。	
		ServerViewエージェント	ServerViewエージェントをインストー ルするかどうかを指定します。	(チェックあり)=アプリケーショ ンをインストールする(*2)
			SNMPサービスをインストールする場合 に指定できます。	
		ServerViewアップデートエ ージェント	ServerViewアップデートエージェント をインストールするかどうかを指定し ます。	(チェックあり)=アプリケーショ ンをインストールする(*2)
			ServerViewエージェントをインストー ルする場合に指定できます。	
		DSNAP	DSNAPをインストールするかどうかを指 定します。	(チェックあり)=アプリケーショ ンをインストールする(*7)
		ソフトウェアサポートガイ ド	ソフトウェアサポートガイドをインス トールするかどうかを指定します。	(チェックあり)=アプリケーショ ンをインストールする(*7)
		ServerView RAID Manager	ServerView RAID Managerをインストー ルするかどうかを指定します。	(チェックあり)=アプリケーショ ンをインストールする
イ	$\boldsymbol{\mathcal{V}}$	ストール後のスクリプト実行		
	イ 行	ンストール後のスクリプト実 	インストール後にスクリプトを実行す るかを指定します。	(チェックあり) =インストール後 にスクリプトを実行する
		0Sに転送するディレクトリ	インストール後、OSに転送するディレク トリを指定します。	インストール後、0Sに転送するディ レクトリを指定する
		実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。(*3)	実行するスクリプトを指定する

*1: OSでサポートしていない値を設定した場合、デフォルト設定でインストールされます。

*2:「地域と言語」設定で日本語を選択している場合は、アプリケーションが日本語でインストールされます。その他の 場合は英語でインストールされます。

*3:Windowsの"cmd /c"コマンドにより、指定したスクリプトを実行します。

*6: Windows Server 2016の場合、ボリューム名は半角の英数字・記号で設定してください。

*7:「地域と言語」設定で日本語を選択している場合のみインストール可能です。

*8:アレイコントローラを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾が無いように設定してください。

*9:「インストールのタイプ」設定でフルインストールを選択している場合のみインストール可能です。

*10:CNAカードのUniversal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MACアドレスを 設定してください。

OS個別情報タブ

項目名		項目名	説明	設定値
インストールメディアタイプ		ストールメディアタイプ	インストールに使用するメディアの 種類を選択します。	常に0Sタブで指定したインストー ルメディアとなる。
11	ユーザー名		ユーザーの名前を入力します。	ユーザー名の文字列を入力する。
刹	且織		ユーザーが属する組織を入力します。	組織の文字列を入力する。
11	ュン	ピュータ名	ネットワーク上で識別するためのコ ンピュータ名を入力します。	コンピュータ名文字列を入力する。
A	dmi	nistratorパスワード	パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
5	7—	クグループ/ドメイン		
	5	ハークグループ/ドメイン	ワークグループまたはドメインのどちらに参加するかを選択します。	ワークグループ=ワークグループ に参加する
				ドメイン=ドメインに参加する (*4)
	5	ワークグループ/ドメイン名	ワークグループまたはドメインの名 前を指定します。	文字列を入力する。
				(*)
		ドメインユーザー名	ドメインの場合、ドメインユーサー名を入力します。	又子列を入力する。
		ドメインパスワード	ドメインの場合、パスワードを入力し ます。	文字列を入力する。
オ	ペツ	トワーク		
	D	HCP	管理LANのIPアドレスに関して固定IP アドレスを指定するか、DHCPを使用す るかを選択します。	(チェックあり)=DHCPを利用する (チェックなし)=固定IPを指定す る
		IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレ スを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
		サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマ スクを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入 力する。
		デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイ を指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4 形式で入力する。
		DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバの IPアドレスを指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式 で入力する。
		DNS ドメイン名	DHCPを利用しない場合、ドメイン名を 指定します。	ドメイン名文字列を入力する。

*4:ドメインサーバに接続できない場合、ワークグループに設定されます。

*5:ワークグループ名は、15文字以下で設定してください。全角は2文字、半角は1文字としてカウントします。

1.2.2 VMware ESXi 5.5/VMware ESXi 6.0用プロファイル

0Sタブ

	項目名	説明	設定値
インストール設定			
	インストールメディア	インストールに使用するメディアの種 類を選択します。	プルダウンから選択する。
	ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版 数を指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール=リポジト リに登録されている中で、最もバー ジョンの新しいServerView Suiteを 使用する

項目名	説明	設定値
		版数を指定する=指定した版数の ServerView Suiteを使用する
管理LAN ネットワークポート設定		l
ネットワークポート指定	管理LANに使用するネットワークのポー トを指定します。	(チェックあり)=管理LANのネット ワークポートを指定する
指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方 法を選択します。(*4)	プルダウンから選択する。
ネットワークカード	指定方法にて、「ポート番号」を指定し た場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を 躍れします	画面から選択する。 PCIカードを選択した場合には、PCI スロット番号を入力する。
ポート番号	指定方法にて、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
MACアドレス	指定方法にて、「MACアドレス」を指定し た場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレ スを入力する。
RAIDとディスクの構成		
アレイコントローラを使用する	サーバ内蔵のアレイコントローラをOS インストール先として使用する場合に 選択します。	(選択時) =アレイコントローラを 使用する(*2)(*3)
既存アレイ構成を使用する	すでにアレイコントローラ上に作成済 みのボリュームを使用します。	(選択時)=既存のアレイ構成を使 用する
アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュ ームを作成して使用します。	 (選択時)=アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラの種類、 RAIDレベル、RAIDに組み込むディス
		クの台数をプルダウンから選択す る。
アレイコントローラを使用しな い	アレイコントローラ以外のドライブを 0Sインストール先として使用する場合	(選択時) = アレイコントローラ以 外を使用する
	に選択します。	加えて、使用するドライブの種類を 画面から選択する。
基本設定		
キーボード	キーボードの言語や種類を指定します。	プルダウンから選択する。
ネットワーク		
セットアップ	VM標準ネットワークでセットアップす るかを指定します。	(チェックあり)=標準ネットワー クを作成する
使用するVLAN ID	VLAN IDを入力します。VLANを使用しな い場合は「0」を入力します。	VLAN IDを入力する。
仮想化管理ソフトへの登録		
仮想化管理ソフトへの登録	ESXiのインストールが完了したあと、続 けてvCenterへ自動的に登録するかどう かを指定します。	(チェックあり)= 登録する (チェックなし)= 登録しない
	自動登録を行う場合、[OS個別情報]タブ で設定するIPアドレスは固定IPアドレ スを設定してください。また、[OS]タブ ではVLAN IDに「0」を指定してください。	
登録先仮想化管理ソフト名	登録先のvCenterを指定します。	事前に[各種設定] - [基本設定] - [仮想管理ソフトウェア]画面に登録 した登録先から選択。
ホスト登録先のフォルダー	登録先のフォルダー名またはクラスタ	登録先のフォルダー名またはクラス

項目名		項目名	説明	設定値
		名またはクラスタ名	名を指定します。	タ名を指定する。
インストール後のスクリプト実行				
	イ 行	'ンストール後のスクリプト実 f	インストール後にスクリプトを実行す るかを指定します。	(チェックあり)=インストール後 にスクリプトを実行する
		スクリプト格納ディレクト リ	インストール後に実行するスクリプト が格納されているディレクトリを指定 します。	インストール後に実行するスクリプ トが格納されているディレクトリを 指定する
		実行するスクリプト	インストール後に実行するスクリプト を指定します。(*1)	インストール後に実行するスクリプ トを指定する。

*1:ファイル中にプレーンテキスト形式でスクリプトを記述してください。

自動インストール(kickStart)中の%post処理として実行されます。%firstboot --interpriter=buzyboxの記述を行なう と%firstboot --interpriter=buzybox処理として実行されます。

*2:アレイコントローラを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾が無いように設定してく ださい。

*3:VMware ESXiでは、「オンボードSATAアレイコントローラ」は使用できません。

*4: CNAカードのUniversal Multi-Channel (UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MACアドレスを設 定してください。

뫼別	情報タブ		
	項目名	説明	設定値
ライセンス合意		VMware社のライセンスに合意するか選 択します。	(チェックあり)=ライセンスに合 意する
		必ずチェックを付け、合意したことを示 してください。	(チェックなし)=ライセンスに合 意しない
イ	ンストールメディアタイプ	インストールに使用するメディアの種 類を選択します。	常にOSタブで指定したインストール メディアとなる。
Ro	otパスワード	パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する
ネ	ットワーク		
	DHCP	管理LANのIPアドレスに関して固定IPア ドレスを指定するか、DHCPを使用するか を選択します。	(チェックあり)=DHCPを利用する (チェックなし)=固定IPを指定す る
	IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレス を指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマス クを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力 する
	デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを 指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形 式で入力する。
	DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIP アドレスで指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式 で入力する。
	コンピュータ名をDNSサーバ から取得	DNSから取得したコンピュータ名(ホス ト名)を利用するかどうかを指定しま す。 DHCPを無効にした場合、チェックあり/ なしを選択することができます。	(チェックあり)=DNSから取得する (チェックなし)=任意のホスト名 を指定する
	コンピュータ名	DNSからコンピュータ名(ホスト名)を取 得しない場合に任意のコンピュータ名 (ホスト名)を指定します。	ホスト名を入力する。

OS個別

1.2.3 Red Hat Enterprise Linux用プロファイル

0Sタブ

項目名	説明	設定値
インストール設定		
インストールメディア	インストールに使用するメディアの種 類を選択します。	プルダウンから選択する。
ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版 数を指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール=リポジト リに登録されている中で、最もバー ジョンの新しいServerView Suiteを 使用する 版数を指定する=指定した版数の
		ServerView Suiteを使用する
管理LAN ネットワークボート設定		
ネットワークボート指定	管理LANに使用するネットワークのボー トを指定します。	(チェックあり)=管理LANのネット ワークポートを指定する
指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方 法を選択します。(*13)	プルダウンから選択する。
ネットワークカード	指定方法にて、「ポート番号」を指定し た場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を 選択します。	画面から選択する。 PCIカードを選択した場合には、PCI スロット番号を入力する。
ポート番号	指定方法にて、「ポート番号」を指定し た場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
MACアドレス	指定方法にて、「MACアドレス」を指定し た場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレ スを入力する。
基本設定		
地域と言語	言語を指定します。	プルダウンから選択する。
キーボード	キーボード種類を指定します。	プルダウンから選択する。
タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
システムクロックでUTCを使 用	システムクロックとして使用する時刻 の種類を指定します。	(チェックあり)=UTCを使用 (チェックなし)=ローカルタイム を使用
RAIDとディスクの構成		
アレイコントローラを使用する	サーバ内蔵のアレイコントローラを0S インストール先として使用する場合に 選択します。	(選択時) =アレイコントローラを 使用する(*12)
既存アレイ構成を使用する	すでにアレイコントローラ上に作成済 みのボリュームを使用します。	(選択時)=既存のアレイ構成を使 用する
アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュ ームを作成して使用します。	 (選択時) =アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラの種類、 RAIDレベル、RAIDに組み込むディス
アレイコントローラを使用しな	アレイコントローラ以外のドライブを	クの台数を画面から選択する。 (選択時) = アレイコントローラ以
	0Sインストール先として使用する場合 に選択します。	外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を 画面から選択する。
パーティション	下記の項目を[プロファイル] 画面に表 示された/boot、/varなどの各マウント ポイントに対して指定します。	

	(各マウントポイント左のチェ ックボックス)	マウントポイントに対して独立したパーティションを作成するかどうかを指	(チェックあり) =パーティションを作成する
		定します。	$(\mathcal{F}_{\tau}, \mathbf{v}, \mathbf{v}, \mathbf{v}) = \mathcal{N} - \mathcal{F}_{\tau} \cdot \mathcal{V}_{\tau} \cdot \mathcal{V}_{\tau}$
			を作成しない
	ファイルシステムタイプ	ファイルシステムの種類を指定します。	プルダウンから選択する
			例 : ext2, ext3, ext4
	サイズ	パーティションの容量を指定します。	数値を10進数で入力する。
	最大許容量まで使用	余ったディスク容量を指定したパーテ	(チェックあり) =指定のパーティ
		ィションに割り当てるかどうかを指定 します。	ションに余った容量を割り当てて容 量を拡大
		Linuxインストール後に空き領域に別途	(チェックなし)=指定した容量で
		パーティションを作成する場合は、本指	パーティションを作成
		定は行いません。	
	ッケーシ選択		
	バッケージ選択の初期値	インストールするバッケーシとして画面に表示されるパッケージグループト	最小=必要最小限のバッケーシ
		面に表示されるパックーンクルークと 個別パッケージの初期選択を変更しま	全て=全てのパッケージ(*7)
		す。	デフォルト=推奨パッケージ(*7)
	パッケージグループ	インストールするパッケージグループ を指定します。	(チェックあり)=インストールす る
			(チェックなし) =インストールし
			ない
	個別パッケージ	インストールするパッケージ名を個別	パッケージ名を文字列で入力する。
		に指定します。	1行あたり1パッケージで複数行の記
			述が可能。
ブ	ートローダーオプション		
	ブートローダをインストール	ブートローダをインストールするかど うかを設定します。	(チェックあり)=ブートローダを インストールする
			本項目は常にチェック状態となる。
	ブートローダのインストール	ブートローダのインストール先を指定	MBR=マスタブートレコードにイン
	場所	します。	ストールする
			本項目は常に「MBR」に設定される。
	カーネルパラメータ	カーネルパラメータを指定します。	カーネルパラメータとして指定する 文字列を入力する
			「省略可】
Se	ecurity-Enhanced Linux		
	SE Linux	SE Linuxの使用有無を指定します	プルダウンで以下から選択すろ
	SE EINMA	STIMATY INTO MICHAE US 7 0	Enforcing, Disabled. Permissive
該	<u>ि</u> क		
HAL	<u></u> シャドウパスワードの使用	シャドウパスワードを使用すスかどう	(チェックあり) = 使用すス
		かを指定します。	(チェックなし)=使用しない (*3)
	MD5の使用	パスワード暗号化にMD5を使用するかど	(チェックあり) =使用する
		うかを指定します。	(チェックなし) =使用しない
	nscdの有効	Name Switch Cacheを使用するかどうか	(チェックあり) =使用する
		を指定します。	(チェックなし)=使用しない
7	プリケーション	OSインストール後に自動的にインスト	
		ールするアプリケーションを指定しま	
		す。	
	アプリケーション選択	インストールするアプリケーションを	(チェックあり) =アプリケーショ
	(各種アプリケーション)	指定します。	ンをインストールする

			アプリケーションの種類はディストリ ビューションによって異なります (*4)。	
1	$\dot{\nu}$	ストール後のスクリプト実行		
	イ 行	ンストール後のスクリプト実 F	インストール後にスクリプトを実行す るかを指定します。	(チェックあり)=インストール後 にスクリプトを実行する
		0Sに転送するディレクトリ	インストール後、OSに転送するディレク トリを指定します。	インストール後、OSに転送するディ レクトリを指定する
		実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。(*8) (*9)	実行するスクリプトを指定する。

*3: 「シャドウパスワード」は、プロファイル設定にかかわらず常に有効になります。

*4: 下表のアプリケーションはServerView Suite DVD V11.16.04、V12.16.10を使用した場合です。将来的にServerView Suite DVDの改版によって変更される場合があります。

アプリケーション	RHEL 6.8(x86)	RHEL 6.8(Intel64)	RHEL 7.2
	/RHEL 6.7(x86)	/RHEL 6.7(Intel64)	/RHEL
	/RHEL 6.6(x86)	/RHEL 6.6(Intel64)	7.1
ServerView Agentless Service	×	0	0
ServerView SNMP Agents	0	0	0
ServerView CIM Providers	×	0	0
ServerView Update Agent (online flash)	0	0	0
ServerView Operations Manager (*10)	0	0	0
ServerView RAID Manager	0	0	0
AIS Connect (*11)	0	0	×
Java Runtime Environment	0	0	0

○=ISMで指定可能、×=ISMで指定不可

- *7: ServerView Suite DVD V11.16.04以降を使用した場合、インストールされないパッケージグループがあります。その 場合、手動でインストールしてください。
- *8:スクリプトから他のスクリプトを実行する場合、実行権限を付与し、呼び出してください。
- *9: shコマンドにより、指定したスクリプトを実行します。
- *10:インストール時には、SELinuxをDisabledに設定してください。
- *11: ServerView Suite DVD V12.16.04以降では設定できません。
- *12:アレイコントローラを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾が無いように設定して ください。

*13: CNAカードのUniversal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MACアドレスを 設定してください。

0S個別情報タブ

	項目名	説明	設定値
1	'ンストールメディアタイプ	インストールに使用するメディアの種 類を選択します。	常に0Sタブで指定したインストール メディアとなる。
Re	ootパスワード	パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する
ネットワーク			
	コンピュータ名をDNSサーバか ら取得	DNSから取得したコンピュータ名(ホス ト名)を利用するかどうかを指定しま す。	(チェックあり)=DNSから取得する (チェックなし)=任意のホスト名 を指定する
	コンピュータ名	DNSからコンピュータ名(ホスト名)を取 得しない場合に、任意のホスト名を指定	ホスト名を入力する。

項目名		項目名	説明	設定値
			します。	
	DHCP		管理LANのIPアドレスに対して固定IPア ドレスを指定するか、DHCPを使用するか を選択します。	(チェックあり)=DHCPを利用する (チェックなし)=固定IPを指定す る
	IF	Pアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレス を指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
	サ	+ブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマス クを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力 する
	デ	「フォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、デフォルトゲー トウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形 式で入力する
	DN	NSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIP アドレスで指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式 で指定する

1.2.4 SUSE Linux Enterprise Server 用プロファイル

0Sタブ

項目名	説明	設定値			
インストール設定					
インストールメディア	インストールに使用するメディアの種 類を選択します。	プルダウンから選択する。			
ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版 数を指定する)	インストールに使用するServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール=リポジト リに登録されている中で、最もバー ジョンの新しいServerView Suiteを 使用する 版数を指定する=指定した版数の ServerView Suiteを使用する			
管理LAN ネットワークポート設定					
ネットワークポート指定	管理LANに使用するネットワークのポー トを指定します。	(チェックあり)=管理LANのネット ワークポートを指定する			
指定方法	管理LANのネットワークポートの指定方 法を選択します。(*9)	プルダウンから選択する。			
ネットワークカード	指定方法にて、「ポート番号」を指定し た場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を 選択します。	画面から選択する。 PCIカードを選択した場合には、PCI スロット番号を入力する。			
ポート番号	指定方法にて、「ポート番号」を指定し た場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。			
MACアドレス	指定方法にて、「MACアドレス」を指定し た場合に入力します。	使用するネットワークのMACアドレ スを入力する。			
基本設定					
地域と言語	言語を指定します。	プルダウンから選択する。			
キーボード	キーボード種類を指定します。	プルダウンから選択する。			
タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。			
システムクロックでUTCを使 用	システムクロックとして使用する時刻 の種類を指定します。	(チェックあり)=UTCを使用 (チェックなし)=ローカルタイム を使用			
RAIDとディスクの構成					
アレイコントローラを使用する	サーバ内蔵のアレイコントローラをOS	(選択時) = アレイコントローラを			
		インストール先として使用する場合に 選択します。	使用する (*8)		
---	---------------------------	---	--		
	既存アレイ構成を使用する	すでにアレイコントローラ上に作成済 みのボリュームを使用します。	(選択時) =既存のアレイ構成を使 用する		
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュ ームを作成して使用します。	(選択時) = アレイを新規に構築する		
			加えて、アレイコントローラの種類、 RAIDレベル、RAIDに組み込むディス クの台数を画面から選択する。		
	アレイコントローラを使用しな い	アレイコントローラ以外のドライブを 0Sインストール先として使用する場合 に選択します。	(選択時) =アレイコントローラ以 外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を 画面から選択する。		
1	ペーティション	下記の項目を[プロファイル] 画面に表 示された/boot、/varなどの各マウント ポイントに対して指定します。			
	(各マウントポイント左のチェ ックボックス)	マウントポイントに対して独立したパ ーティションを作成するかどうかを指 定します。	(チェックあり)=パーティション を作成する (チェックなし)=パーティション		
			を作成しない		
	ファイルシステムダイブ	ノアイルシステムの種類を指定します。	クルタリンから速状する 例 : ext2, ext3, ext4 (*1)		
	サイズ	パーティションの容量を指定します。	数値を10進数で入力する。		
	最大許容量まで使用	余ったディスク容量を指定したパーテ ィションに割り当てるかどうかを指定 します。	(チェックあり)=指定のパーティ ションに余った容量を割り当てて容 量を拡大		
		Linuxインストール後に空き領域に別途 パーティションを作成する場合は、本指 定は行いません。	(チェックなし)=指定した容量で パーティションを作成		
1	ペッケージ選択				
	パッケージ選択の初期値	インストールするパッケージとして画 面に表示されるパッケージグループと 個別パッケージの初期選択を変更しま す。	最小=必要最小限のパッケージ 全て=全てのパッケージ デフォルト=推奨パッケージ		
	パッケージグループ (*2)	インストールするパッケージグループ を指定します。	(チェックあり)=インストールす る		
			(チェックなし)=インストールし ない		
	個別パッケージ	インストールするパッケージ名を個別 に指定します。	パッケージ名を文字列で入力する。 1行あたり1パッケージで複数行の記 述が可能。		
フ	「ートローダーオプション				
	ブートローダをインストール	ブートローダをインストールするかど	(チェックあり)=ブートローダを		
		うかを設定します。	インストールする 本項目は常にチェック状態となる。		
	ブートローダのインストール 場所	ブートローダのインストール先を指定 します。	MBR=マスタブートレコードにイン ストールする 本項目は常に「MBR」に設定される。		
	カーネルパラメータ	カーネルパラメータを指定します。	カーネルパラメータとして指定する 文字列を入力する。 【省略可】		

S	Security-Enhanced Linux				
	SE Linux	SE Linuxの使用有無を指定します。	本項は常に「Disabled」に設定される		
認証					
	シャドウパスワードの使用	シャドウパスワードを使用するかどう かを指定します。	本項は常に「チェックあり(使用する)」に設定される		
	MD5の使用	パスワード暗号化にMD5を使用するかど うかを指定します。	本項は常に「チェックなし(使用し ない)」に設定される		
	nscdの有効	Name Switch Cacheを使用するかどうか を指定します。	本項は常に「チェックあり(使用する)」に設定される		
アプリケーション		0Sインストール後に自動的にインスト ールするアプリケーションを指定しま す。			
	アプリケーション選択 (各種アプリケーション)	インストールするアプリケーションを 指定します。 アプリケーションの種類はディストリ ビューションによって異なります (*4)。	(チェックあり)=アプリケーショ ンをインストールする		
1	インストール後のスクリプト実行(*3)			
	インストール後のスクリプト実 行	インストール後にスクリプトを実行す るかを指定します。	(チェックあり) =インストール後 にスクリプトを実行する		
	OSに転送するディレクトリ	インストール後、OSに転送するディレク トリを指定します。	インストール後、OSに転送するディ レクトリを指定する		
	実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。(*5) (*6)	実行するスクリプトを指定する。		

*1: SLES 11 SP4では、ext4はReadのみ対応しています。SLES 12では、ext4がRead/Write両方可能ですが、SLESとして 正式サポートの対象ではありません。

*2:SLES 12では、パッケージグループに「X Windows System」が指定されていない場合も、コンソールで起動しません。 <CTRL><ALT><F1>を押すと、コンソールからログインできます。

*3: SLES 12では、インストール後のスクリプト実行に対応していません。

*4: 下表のアプリケーションは ServerView Suite DVD V11.16.04、V12.16.10 を使用した場合です。将来的に ServerView Suite DVD の改版によって変更される場合があります。

アプリケーション(RHFIの場合)	SLES 11 SP4 (*86)	SLES 11 $SP4(intel64)$	SLES 12
	5LL5 11 514(x00)		/SLES 12 SP1
ServerView Agentless Service	×	0	0
ServerView SNMP Agents	0	0	0
ServerView CIM Providers	×	×	×
ServerView Update Agent (online flash)	0	0	0
ServerView Operations Manager	×	×	×
ServerView RAID Manager	0	0	0
AIS Connect (*7)	×	×	×
Java Runtime Environment	0	0	0

○=ISMで指定可能、×=ISMで指定不可

*5:スクリプトから他のスクリプトを実行する場合、実行権限を付与し、呼び出してください。

*6: shコマンドにより、指定したスクリプトを実行します。

*7: ServerView Suite DVD V12.16.04以降では設定できません。

*8:アレイコントローラを使用する場合、BIOSの「Onboard Device Configuration」設定と矛盾が無いように設定してください。

*9: CNAカードのUniversal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MACアドレスを設定してください。

OS個別情報タブ

項目名	説明	設定値
インストールメディアタイプ	インストールに使用するメディアの種 類を選択します。	常に0Sタブで指定したインストール メディアとなる。
Rootパスワード	パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する
ネットワーク		
コンピュータ名をDNSサーバか ら取得	DNSから取得したコンピュータ名(ホス ト名)を利用するかどうかを指定しま す。	(チェックあり)=DNSから取得する (チェックなし)=任意のホスト名 を指定する
コンピュータ名	DNSからコンピュータ名(ホスト名)を取 得しない場合に、任意のホスト名を指定 します。	ホスト名を入力する。
DHCP	管理LANのIPアドレスに対して固定IPア ドレスを指定するか、DHCPを使用するか を選択します。	(チェックあり)=DHCPを利用する (チェックなし)=固定IPを指定す る
IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレス を指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマス クを指定します。	サブネットマスクをIPv4形式で入力 する
デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、デフォルトゲー トウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形 式で入力する
DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIP アドレスで指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式 で指定する

1.3 ストレージ用プロファイルの設定項目

ETERNUS DX/AFシリーズ用のプロファイル中で設定する項目を記載します。対象とするストレージ種類に応じて選択可能 な項目が異なる場合があります。

各項目の詳細は、対象ストレージのマニュアルを参照してください。

RAID&ディスク構成タブ

	項目名	説明	設定値
R	AID構成		
	RAIDグループ名	RAIDグループ名を指定します。 注意	RAIDグループ名文字列を入力する 1~16文字が入力可能
		装置に設定済みのRAIDグループ名は指 定できません。	
	RAIDレベル	構築するディスクアレイのRAIDレベル を指定します。	プルダウンから以下を選択する RAID1、RAID5、RAID6、RAID1+0
	ディスク本数	ディスクアレイに組み込むディスク本 数を指定します。	ディスク数を指定する 選択したRAIDレベルに応じて選択

項目名	説明	設定値
		可能な台数は異なる
ディスクインチ	ディスクドライブの種類(ドライブ外	プルダウンから以下を選択する
	形サイズ)を指定します。	2.5 Inch, 3.5 Inch
ディスク種別	ディスクアレイに組み込むディスクド	プルダウンから以下を選択する
	ライブの種類(インターフェース種類)	ETERNUSのモデル、選択したディス
	を指定します。	クインチに応じて選択可能な種別
		は異なる
		SAS, NL-SAS, SED, SSD
アイベク谷重	ティスクチレイに組み込むティスクト ライブの種類 (ディスク容量)を指定し	フルタワンから以下を選択する
	ます。	選択しにディスクインデ、ディスク 種別に応じて選択可能か容量け異
		なる
		300GB、450GB、1TB/まか
ボリューム	1	
ボリューム名	RAIDグループに作成するボリューム名	RAIDグループに作成するボリュー
	を指定します。	ム名文字列を指定する
	注意	1~16文字が入力可能
	装置に設定済みのボリューム名は指定	
	じさません。	
ボリュームサイズ	RAIDグループに作成するボリュームサ	テキストボックスにボリュームサ
	イズを指定します。	イズを指定し、プルダウンから以下
		を選択する
		最後のホリュームサイスに対して は"may"を指定するとRAIDグループ
		の残り全容量が割り当てられる
		ETERNUS DX60 S2では"max"は指定で
		きない
		MB、GB、TB
グローバルホットスペア		
ディスクインチ	ホットスペアとして定義するディスク	プルダウンから以下を選択する
	ドフイブの種類(ドライブ外形サイズ)	2.5 Inch, 3.5 Inch
ディスク毎別	こ田圧しより。	プルダウンかたド下な遅切ナス
ノ 1 ハ ノ 1里刀1	ドライブの種類(インターフェース種	シルフラマル OKTを選びする FTERNISのモデル 選択したディフ
	類)を指定します。	クインチに応じて選択可能な種別
		は異なる
		SAS、NL-SAS、SED、SSD
ディスク容量	ホットスペアとして定義するディスク	プルダウンから以下を選択する
	ドライブの種類 (ディスク容量)を指定	選択したディスクインチ、ディスク
	します。	種別に応じて選択可能な容量は異
		なら
		300GB、450GB、1TBほか
ホストアフィニティ		
LUNグループ		
LUNグループ名	LUNグループ名を指定します。	LUNグループ名文字列を指定する

	項目名	説明	設定値
		注意	
		装置に設定済みのLUNグループ名は指	
		正でさません。	
	ボリューム		
	ボリューム名	LUNグループに属するボリューム名を	LUNグループに属するボリューム名
		指定します。	文字列を入力する
			フロファイルで作成するホリュームか 既に装置に作成されているボ
			リュームを指定する
	ポートグループ	1	1
	ポートグループ名	ポートグループ名を指定します。	ポートグループ名文字列を指定す
			3
		注意	1~16文字が入力可能
		装置に設定済みのポートグループ名は	
		指定できません。	
	ポート		
	ポート番号	ポートグループに属するポート番号を	ポートグループに属するポート番
		指定します。	号を三桁の数字で指定する
	ホストグループ		
	ホストグループ名	ホストグループ名を指定します。	ホストグループ名文字列を指定す
			ふ 1~16文字が入力可能
		注意	
		装直に設た済みのホストクルーノ名は 指定できません。	
	ホストタイプ	ホストグループのタイプを指定しま	ブルダウンから以下を選択する
		2 0	ISCSI, FC
	ホ スト		
	ホスト名	ホストクルーフに属するホスト名を指定します	ホストクルーフに属するホスト名 文字列を指定する
			1~16文字が入力可能
		注音	
		装置に設定済みのホスト名は指定でき	
		ません。	
1			

項目名	説明	設定値
ホストiSCSI	ホスト名を定義するiSCSI名を指定し ます。 ホストグループのホストタイプが iSCSI名の時に入力可能です。	iSCSI名文字列を入力する 先頭に"iqn."または"eui."を入力 する
ホストWWN	ホスト名を定義するホストWWNを指定 します。 ホストグループのホストタイプがFCの 時に入力可能です。	ホストWWN文字列を入力する 16文字の16進数が入力可能
詳細設定		
Pre実行コマンド	プロファイルの適用動作(RAID/ホット スペア/ホストアフィニティ設定)の実 行前にETERNUSに対して実施したい制 御コマンドを記述します。 特別な要求がない場合はチェックボッ クスを無効にしておきます。	記述内容については対象装置の 『CLIユーザーガイド』を参照する こと
Post実行コマンド	プロファイルの適用動作(RAID/ホット スペア/ホストアフィニティ設定)の完 了後にETERNUSに対して実施したい制 御コマンドを記述します。 特別な要求がない場合はチェックボッ クスを無効にしておきます。	記述内容については対象装置の 『CLIユーザーガイド』を参照する こと

ポイント

- アレイ構成に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。
- ホットスペア構築に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。

1.4 スイッチ用プロファイルの設定項目

スイッチ用のプロファイル中で設定する項目を記載します。 各項目の詳細は、対象スイッチのマニュアルを参照してください。

1.4.1 SRX用プロファイル

SNMPタブ

項目名	説明	設定値
SNMPサービス		
SNMPサービス設定	SNMPサービス設定を使用するかどうか を指定します。	(チェックあり)=使用する (チェックなし)=使用しない
SNMPエージェントとトラップ (ON/OFF)	SNMPエージェントとトラップの有効、 無効を指定します。	0N=機能を有効にする 0FF=機能を無効にする
SNMPエージェント設定	SNMPエージェント設定を使用するかど うかを指定します。	(チェックあり)=使用する (チェックなし)=使用しない
エージェントアドレス	エージェントアドレスを有効にするか どうかを指定します。	(チェックあり)=エージェント アドレスを有効にする

項目名		項目名	説明	設定値
				加えて、エージェントアドレスを IPv4形式で入力する
		SNMPエンジンID	SNMPエンジンIDを有効にするかどうか を指定します。	(チェックあり)=SNMPエンジン IDを有効にする
				加えて、SNMPエンジンIDを入力す る。
S	NMP	ホスト (SNMPv1 or v2c)		
	番	号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する
	ア	イドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定しま す。	SNMPホストのIPアドレスをIPv4形 式で指定する
	11	コミュニティー名	SNMPホストのコミュニティー名を指定 します。	SNMPホストのコミュニティー名文 字列を入力する
	1	、ラップ	SNMPトラップの送信有無を指定しま す。	プルダウンから以下を選択する Off、v1、v2c
	ŧ	書き込み	SNMPマネージャーからの書き込みを許	(チェックあり) =許可する
			可するかを指定します。	(チェックなし) =許可しない
S	NMP	ユーザー (SNMPv3)		
	番	\$ 万	SNMPユーザー定義番号を指定します。	プルダウンから選択する
	Л	ーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	SNMPユーザー名文字列を入力する
	ア	~ドレス設定	SNMPのホストアドレスを有効にするか	(チェックあり) =有効にする
			を指定します。	(チェックなし) =無効にする
		ホスト番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する
		ホストアドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定しま す。	SNMPホストのIPアドレス文字列を 入力する
	4	、ラップ設定	SNMPトラップ設定を有効にするかを指 定します。	(チェックあり)=有効にする (チェックなし)=無効にする
		ホスト番号	SNMPホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する
		ホストアドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定しま す。	SNMPホストのIPアドレス文字列を 入力する
	認	私証設定	SNMP認証プロトコルを有効にするかを 指定します。	(チェックあり)=有効にする (チェックなし)=無効にする
		認証プロトコル	SNMP認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する None MD5 SHA
			SNMP認証パスワードを指定します。	NMP認証パスワード文字列を入力
				する。
	暗	译 号化設定	SNMP暗号化設定を有効にするかを指定 します。	(チェックあり)=有効にする (チェックなし)=無効にする
		暗号化プロトコル	SNMP暗号プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 None、DES
		暗号化パスワード	SNMP暗号パスワードを指定します。	SNMP暗号パスワード文字列を入力 する
	討	長み取り	SNMP MIB読み取りを有効にするかを指	(チェックあり) =有効にする
			定します。	加えて、プルダウンから以下を指 定する
				none:読み取りを許可しない
				all:読み取りを許可する
	書	きシン	SNMP MIB書き込みを有効にするかを指	(チェックあり) =有効にする
			定します。	加えて、プルダウンから以下を指

項目名	説明	設定値
通知	SNMP MIBトラップ通知を有効にするか を指定します。	定する none:書き込みを許可しない all:書き込みを許可する (チェックあり)=有効にする 加えて、プルダウンから以下を指 定する。 none:読み出しを許可しない
		all:読み出しを許可する

認証タブ

項目名		説明	設定値
ア	・ カウント		
	管理者のパスワードの変更	管理者パスワードの変更をするか指定 します。	(チェックあり)=管理者パスワー ドを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを指定しま す。	パスワード文字列を入力する

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻	別の自動調整		
	時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするか指定し ます。	(チェックあり)=有効にする
	サーバ設定	時刻提供サーバの設定を有効にするか 指定します。	(チェックあり)=有効にする (チェックなし)=無効にする
	プロトコル	使用するプロトコルを指定します。	Time=TCPを使用する
	(Time/SNTP)		SNTP=UDPを使用する
	アドレス	時刻提供サーバのIPアドレスを指定し ます。	時刻提供サーバのIPアドレス文字列 を入力します。
	間隔設定	自動時刻設定する間隔を有効にするか 指定します。	(チェックあり)=有効にする (チェックなし)=無効にする
	間隔時間	自動時刻設定の間隔を指定します。	起動時=起動時に行う
	(起動時/期間指定)		期間指定=任意の期間に行う。加え て、画面に期間を入力する
	タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を有効にするか指定 します。	(チェックあり) =有効にする
			(チェックなし) =無効にする
	グリニッジ標準時刻から の時間差	装置が使用するタイムゾーンを指定し ます。	プルダウンから選択する

STPタブ

項目名	説明	設定値
STP (スパニングツリープロトコル)) 設定	
STP	STP設定を有効にするか指定します。	(チェックあり)=有効にする
		加えて、プルダウンから選択する

1.4.2 VDX用プロファイル

SNMPタブ

項目名	説明	設定値	
SNMPサービス			
SNMPサービス設定	SNMPサービス設定を使用するかどうか を指定します。	(チェックあり)=使用する (チェックなし)=使用しない	
SNMPエージェントとトラッ プ (ON/OFF)	SNMPエージェントとトラップの有効、 無効を指定します。	0N=機能を有効にする0FF=機能を無効にする	
グループ(コミュニティーとユー	げー用)		
グループタ	グループタを指定します	グループタ文字列を入力する	
SNMP X X	SNMPバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する	
		v1、v2c、v3	
v3セキュリティレベル	SNMPv3用セキュリティレベルを指定し ます。	プルダウンから以下を選択する auth、noauth、priv	
読み取り	SNMP MIB読み取りを有効にするかを指 定します。	 (チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none:読み取りを許可しない all:読み取りを許可する 	
書き込み	SNMP MIB書き込みを有効にするかを指定します。	 (チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none:書き込みを許可しない all:書き込みを許可する 	
通知	SNMP MIBトラップ通知を有効にするか を指定します。	 (チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none:読み出しを許可しない all:読み出しを許可する 	
コミュニティー (ホスト用)	•		
コミュニティー名	SNMPコミュニティー名を指定します。	コミュニティー名文字列を入力する	
グループ	コミュニティーが所属するグループを 指定します。	(チェックあり)=有効にする 加えて、プルダウンからグループを 選択する	
書き込み	SNMPコミュニティーの書き込みを有効 にするかを指定します。	(チェックあり)=有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択 する Enabled、Disabled	
ホスト		•	
アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定します。	ホストのIPアドレスをIPv4または IPv6のアドレス表記に従った文字列 を入力する	
コミュニティー名	SNMPコミュニティー名を指定します。	プルダウンから選択する	
重大度レベル	SNMPトラップレベルを指定します。	プルダウンから選択する	

項目名	説明	設定値
トラップバージョン	SNMPトラップバージョンを指定しま	プルダウンから以下を選択する
	す。	v1、v2c
UDPポート	SNMPトラップ送信ポートを指定しま	SNMPトラップ送信ポート文字列を入
	す。	力する
		「0」~「65535」が指定可能
ユーザー (v3ホスト用)		
ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	ユーザー名1~64文字の文字列を入 カする
グループ	SNMPグループ名を指定します	グループタ1~64文字の文字列を入
		カする
認証設定	SNMP認証設定を有効にするか指定しま す。	(チェックあり)=有効にする
認証プロトコル	SNMP認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する
		MD5、SHA、NoAuth
認証パスワード	SNMP認証パスワードを入力します。	認証パスワード1~32文字の文字列 を入力する
暗号化設定	SNMP暗号化設定を有効にするか指定します。	(チェックあり)=有効にする
暗号化プロトコル	SNMP暗号化プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する
		DES、AES128、NoPriv
暗号化パスワード	SNMP暗号パスワードを指定します。	暗号化パスワード1~32文字の文字 列を入力する
v3ホスト	1	
アドレス	SNMPホストのIPアドレスを指定しま	ホストのIPアドレスをIPv4または
	す。	IPv6のアドレス表記に従った文字列 を入力する
ユーザー名	SNMPユーザー名を指定します。	ユーザー名1~16文字の文字列を入 力する
重大度レベル	SNMPトラップレベルを指定します。	プルダウンから選択する
通知タイプ	SNMP通知タイプを指定します	プルダウンから選択する
エンジンID	SNMPエンジンIDを指定します。	エンジンID「0:0:0:0:0:0:0:0:0」~ 「FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF」を 文字列で指定する
		文字パターンは、MACアドレスと同様
UDPポート	SNMPトラップ送信ポートを指定しま	SNMPトラップ送信ポート文字列を入
	す。	力する
		「0」~「65535」が指定可能

認証タブ

	項目名	説明	設定値
フ	アカウント		
	管理者のパスワードの変更	管理者パスワードの変更をするか指定 します。	(チェックあり)=管理者パスワー ドを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを指定しま す。	パスワード8~32文字の文字列を入 力する

NTPタブ

	項目名	説明	設定値
時亥	りの自動調整		
Ħ	寺刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするか指定します。	(チェックあり)=有効にする
	サーバ設定	時刻提供サーバの設定を有効にするか 指定します。	(チェックあり)=有効にする (チェックなし)=無効にする
	アドレス	時刻提供サーバのIPアドレスを指定します。	時刻提供サーバのIPアドレスを IPv4またはIPv6のアドレス表記に 従った文字列を入力する
	タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を有効にするか指定 します。	(チェックあり)=有効にする (チェックなし)=無効にする
	地域	地域情報を指定します。	地域情報を(地域)/(都市)形式で 入力する